平成19年度（第51回）
岩手県教育研究発表会発表資料

情報教育

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する研究

―コンピュータ教材の開発と活用をとおして―

平成20年1月8日
長期研修生
所属校　県立盛岡商業高等学校
氏名　野里拓郎

目　次

Ⅰ　研究目的 ---------- 1
Ⅱ　研究仮説 ---------- 1
Ⅲ　研究の内容と方法 ---------- 1
1　内容と方法 ---------- 1
2　授業実践の対象 ---------- 2
Ⅳ　研究結果の分析と考察 ---------- 2
1　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想 ---------- 2
(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導についての基本的な考え方--- 2
(2)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導にコンピュータ教材を取り入れる意義 ---------- 2
(3)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導にコンピュータ教材を取り入れた指導の展開 ---------- 3
(4)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想図 ------ 4
2　基本構想に基づく手だての試案 ---------- 5
(1)　手だての試案 ---------- 5
(2)　検証計画 ---------- 6
3　基本構想に基づくコンピュータ教材の開発 ---------- 6
(1)　コンピュータ教材開発の目標 ---------- 6
(2)　コンピュータ教材開発の留意点 ---------- 6
(3)　コンピュータ教材の概要 ---------- 7
4　授業実践及び実践結果の分析と考察 ---------- 10
(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導の概要 ---------- 10
(2)　検証計画に基づいた学習内容の習得状況 ---------- 14
(3)　コンピュータ教材の評価について ---------- 17
5　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関するまとめ ---------- 18
Ⅴ　研究のまとめと今後の課題 ---------- 19
1　研究のまとめ ---------- 19
2　今後の課題 ---------- 19

〈おわりに〉
【参考文献】
【補充資料】

Ⅰ　研究目的

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」においては，キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図り，会計を活用して企業の実態を的確に捉えることができる能力と態度を育てることをねらいとしている。

しかし，実際の指導では，キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方について，生徒に十分に理解させ習得させることができているとは言い難い。これは，会計実務が，会計制度の変更・拡充に対応する新しい学習内容を取り入れた科目であるために，指導事例や教材が少なく，効果的な指導法が確立されていないことが理由としてあげられる。

このような状況を改善するためには，キャッシュ・フロー計算書に関する具体的な会計処理の手順や会計情報の活用方法を教師が提示したり，基本的な例題や実践的な演習問題を生徒が解答したりできるコンピュータ教材を開発し，学習指導に活用することが有効であると考える。

そこで，この研究は，コンピュータ教材の開発と活用をとおして，キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導について明らかにし，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」の指導改善に役立てようとするものである。

Ⅱ　研究仮説

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」の指導において，キャッシュ・フロー計算書に関する具体的な会計処理の手順や会計情報の活用方法を教師が提示したり，基本的な例題や実践的な演習問題を生徒が解答したりできるコンピュータ教材を開発し活用すれば，資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図ることができるであろう。

Ⅲ　研究の内容と方法

１　内容と方法

(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想の立案（文献法）

先行研究および関係する文献を参考に，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想を立案する。

(2)　基本構想に基づくの手だての試案の作成（文献法）

基本構想に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する手だての試案を作成する。

(3)　基本構想に基づくコンピュータ教材の開発(開発法)

基本構想に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関するコンピュータ教材を開発する。

(4)　授業実践および実践結果の分析と考察（授業実践，テスト法，質問紙法）

基本構想に基づいて開発したコンピュータ教材を活用した授業を行い，その結果を分析することにより，手だての有効性を検証する。

(5)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた

資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導についてまとめる。

2　授業実践の対象

岩手県立盛岡商業高等学校　第３学年会計ビジネス科

「会計実務」選択生（男子１名　女子18名　計19名）

Ⅳ　研究結果の分析と考察

1　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想

(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導についての基本的な考え方

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」においては，最新の会計理論と会計制度の変化に対応できるように，キャッシュ・フロー計算書に関する知識と技術を生徒に習得させ，ビジネスの諸活動において合理的に活用する能力と態度を育てること，また，会計を活用して企業の実態を的確に捉えることのできる能力と態度を育て,実務に即した授業が求められている。

キャッシュ・フロー計算書とは，一会計期間における資金（現金および現金同等物）の増減，つまり収入と支出を,営業活動・投資活動・財務活動などに区分して表示する財務諸表である。キャッシュ・フロー計算書の作成目的は,損益計算書とは別の観点から企業の資金状況を開示，すなわち企業の現金創出能力と支払い能力を査定するのに役立つ情報を提供するキャッシュ・フロー会計の考え方を基に，利益の質を評価するのに役立つ情報を提供することにあるとされる。日本においては，会計基準の国際的調和化の一環として「連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準」の導入に伴い，2000年３月期から作成が義務づけられた。企業会計制度上は，貸借対照表と損益計算書に次ぐ第３の財務諸表として位置付けられている。

この研究における「キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法を習得する」とは，キャッシュ・フロー会計について理解し，企業の資金情報を利用してキャッシュ・フロー計算書を作成できるようになることとする。「キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の利用の仕方を習得する」とは，キャッシュ・フロー計算書から，具体的な基準を示し，正しく財務分析し自分の考えをまとめることができることとする。

(2)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法と利用の仕方の習得を図る指導にコンピュータ教材を取り入れる意義

会計実務での指導は，例題や演習問題を電卓を用いて計算し，キャッシュ・フロー計算書を手書きして作成する従来の簿記・会計での指導方法を行なっている。キャッシュ・フロー計算書作成のためには，計算，仕訳，転記の作業が必要であり，作業スピードには個人差が大きく，全員に対して一斉指導するには十分な時間の確保が必要である。そのため，限られた時間の中で，キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法を確実に習得させ，その利用の仕方の習得を図るところまで十分に指導できていないのが実態である。

キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や活用の仕方の習得を図る指導に

おいて，コンピュータ教材を活用して基礎的な知識を習得させ，時間のかかる計算・仕訳・転記の作業を自動化し，素早くキャッシュ・フロー計算書を作成させることができれば，短時間でより多くの演習問題を解答させたり，繰り返して解答させたりすることが可能となり，財務分析をする指導の時間を確保し，財務分析ができるようになると考える。また，基本的な用語やしくみを説明したり，演習問題の解答の仕方がわからないときには，作成の手順や作成方法などの解説を表示したり，自動採点して間違いを確認させたり，再度やり直して解答させる学習ができれば，個々の理解状況に合わせた指導が可能となると考える。

(3)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導にコンピュータ教材を取り入れた指導の展開

「資金に関する情報」においては，次の三つの学習段階を設けて指導する。まず，キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報にかかわる基礎的な知識を習得する段階，次に，キャッシュ・フロー計算書の作成演習をとおして，資金情報の処理の仕方を理解し，作成方法を身に付ける段階，最後に，キャッシュ・フロー計算書を活用して資金情報の利用の仕方を理解し，活用方法を身に付ける段階である。

これらの各段階において，学習する内容を理解し，習得を図るためにコンピュータ教材を開発し指導に活用する。また，各段階においていつでも必要なコンピュータ教材を利用して学習内容の確認や復習ができるようにする。

ア　キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報にかかわる基礎的な知識を習得する段階

ここでは，キャッシュ・フロー計算書にかかわる用語や考え方などの基礎的な知識を図やアニメーションを利用してわかりやすく提示できる提示型コンピュータ教材を活用して，一斉に説明し理解できるようにする。また，必要に応じて，この提示型コンピュータ教材を利用した学習内容の確認や復習も適宜おこない知識の習得を図る。

イ　キャッシュ・フロー計算書の作成演習をとおして，資金情報の処理の仕方を理解し，作成方法を身に付ける段階

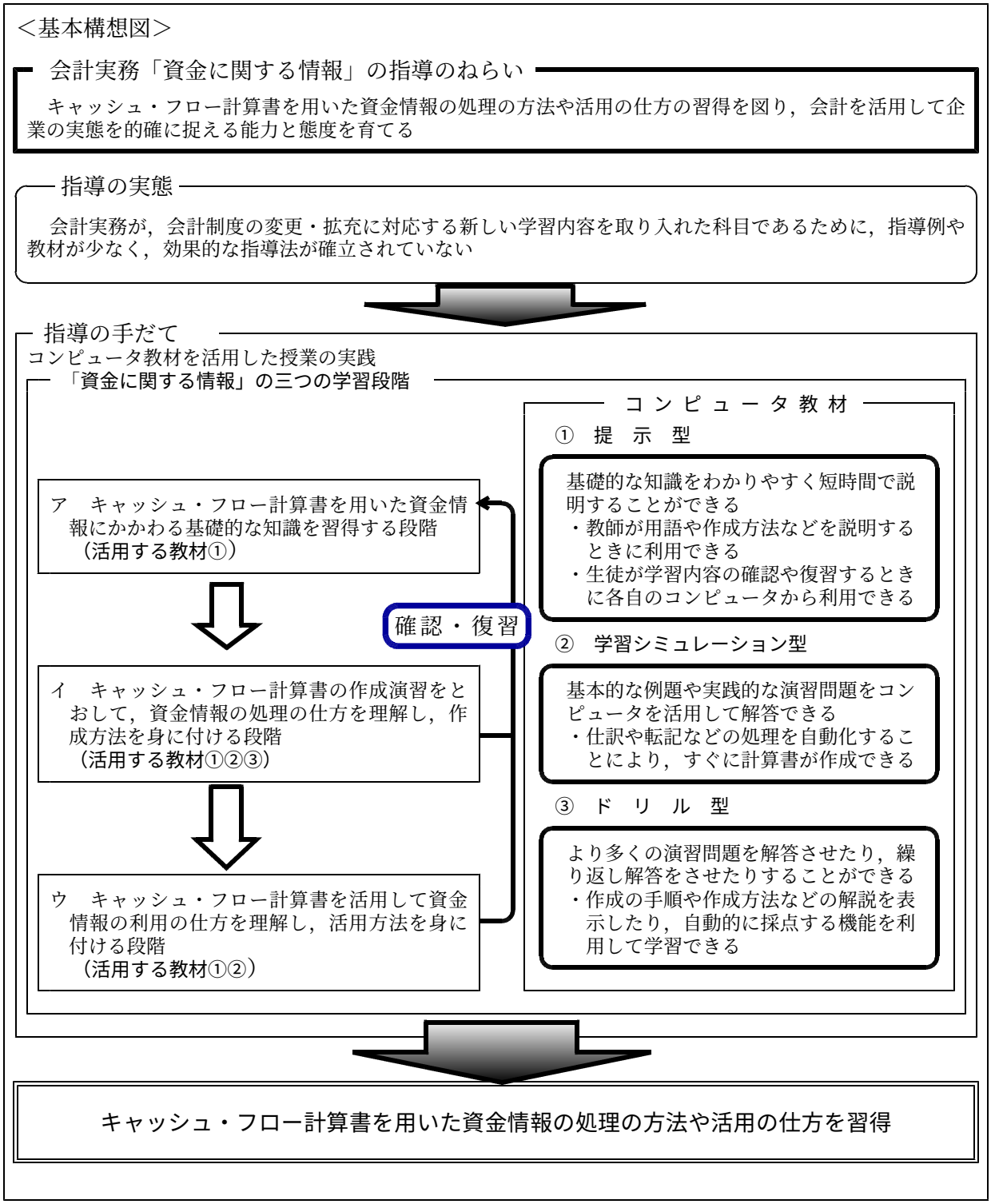
最初に，キャッシュ・フロー計算書の作成に関する基本的な例題を解答できる学習シミュレーション型コンピュータ教材を活用して，教師の説明を聞きながら解答させ基本的な作成方法を理解させる。次に，実践的な演習問題を解答できるドリル型コンピュータ教材を活用して，生徒の学習レベルに合わせて解答させる。生徒は，必要なときに手順や解説を表示させたり，自動的に採点する機能を利用してすぐに間違いを確認したり，再度解答したりしながら作成方法を身に付けることができるようになる。

ウ　キャッシュ・フロー計算書を活用して資金情報の利用の仕方を理解し，活用方法を身に付ける段階

コンピュータ教材を活用して作成した例題のキャッシュ・フロー計算書を用いて，教師が財務分析の手順や方法を提示して説明する。その後，演習問題で作成したキャッシュ・フロー計算書を活用して，財務分析の演習を行う。最後に，実際の企業のキャッシュ・フロー計算書を利用してその内容を検討し，具体的な基準を示して正しく財務分析し自分の考えをまとめることができるようにする。

(4)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想図

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想図を【図１】のようにまとめた。



【図１】キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想図

2　基本構想に基づく手だての試案

(1)　手だての試案

基本構想に基づく手だての試案を【表１】に示す。

【表１】基本構想に基づく手だての試案

段　階	学　習　活　動	指導上の留意点及びコンピュータ教材の活用 （○は指導上の留意点，△はコンピュータ教材の活用を示す）
キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報にかかわる基礎的な知識を習得する段階	1　単元の学習課題の設定を把握する 2　キャッシュ・フロー計算書の意義について考える 3　キャッシュ・フロー計算書の必要性について気付く 4　キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲について理解する 5　キャッシュ・フロー計算書表示区分について理解する 6　キャッシュ・フロー計算書の表示方法について理解する 7　まとめ	○　キャッシュ・フロー計算書の概要とおおまかな導入までの経緯を理解させる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　基本的な用語や考え方，他の財務諸表と比較しながら簡単な説明に留める △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　「黒字倒産」を例に必要性と今までの財務諸表での限界に気付かせる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　対象となる資金の範囲，特に現金以外の範囲について理解させる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　学習プリントを使い，それぞれの区分が何を意味しているか理解させ，簡単な財務分析をさせ興味・関心を持たせる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　表示方法が違っても最終的な数字は同じであることを知らせる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる △　キャッシュ・フロー計算書の重要さを理解させ，必要に応じて提示型コンピュータ教材を使用して，再度，説明する
キャッシュ・フロー計算書の作成演習をとおして，資金情報の処理の仕方を理解し，作成方法を身に付ける段階	1　前時の学習内容を確認する 2　単元の学習課題の設定を把握する 3　キャッシュ・フロー計算書の作成手続きについて理解する 4　金額の修正について理解する 5　精算表を使っての手続きについて簡単にできることに気付く 6　ドリル型コンピュータ教材を使用して作成する 7　まとめ	△　提示型コンピュータ教材を見せながらキャッシュ・フロー計算書についておおまかに復習，確認させる ○　キャッシュ・フロー計算書の意義をもう一度確認させ，直接法と間接法の違いを理解させる △　提示型コンピュータ教材を見せ説明していく ○　キャッシュ・フロー計算書は，貸借対照表と損益計算書を組み替えて作ることを理解させる。 △　提示型コンピュータ教材を見せ説明していく ○　収益と収入，費用と支出の違いについて考えさせ，金額の修正については，簡単な説明に留める △　学習シミュレーション型コンピュータ教材を使い簡単に作成することができることを知らせる △　ドリル型コンピュータ教材の操作方法を説明し，学習プリントで仕訳をさせながら進める ○　履歴が見られるように自分のフォルダに保存させ，ドリル型コンピュータ教材の解答した問題をプリントアウトさせる ○　直接法，間接法それぞれ作成方法の違いを確認する △　必要に応じて提示型コンピュータ教材を使用して，再度，説明する
キャッシュ・フロー計算書を活用して資金情報の利用の仕方を理解し，活用方法を身に付ける段階	1　前時の学習内容を確認する 2　キャッシュ・フロー計算書を用いて経営分析について考える 3　キャッシュ・フロー計算書を用いて経営分析について理解する 4　まとめ	△　提示型コンピュータ教材を見せながらキャッシュ・フロー計算書についておおまかに復習，確認させる △　数社の財務諸表を用意し，数値の持つ意味について考えレポートにまとめさせ，その数値が何を表しているかまで分析・把握させる △　Webページを活用し情報を収集する △　必要に応じて提示型コンピュータ教材を使用して説明する ○　自分の言葉で考えをまとめるように働きかける ○　営業活動以外の投資活動，財務活動がそれぞれ何を意味しているのか簡単な例を用いて考えさせるようにする

(2)　検証計画

検証計画の概要は【表２】のとおりである。

確認テストの記述内容を判断するための規準は【表３】のとおりである。

【表２】検証計画の概要

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
キャッシュ・フロー計算書にかかわる基礎的な知識の習得状況	キャッシュ・フロー計算書に関する用語やしくみなどの問題に答えることができる	テスト法	確認テストを行い習得状況について分析・考察する
資金情報の処理の方法の習得状況	キャッシュ・フロー計算書が作成できる	テスト法 観察法	確認テストを行い習得状況について分析・考察する コンピュータの履歴を確認し，分析・考察する
資金情報の利用の仕方の習得状況	キャッシュ・フロー計算書を用いた財務分析ができる	テスト法	確認テストの記述内容について分析・考察する
コンピュータ教材の評価	コンピュータ教材に対する生徒の意識	質問紙法	事後アンケートの記述内容について分析・考察する

【表３】確認テストの記述内容を判断するための規準

検証内容	判断するための規準
確認テストの記述内容	A　キャッシュ・フロー計算書から，具体的な根拠を示し正しく財務分析し，自分の考えをまとめることができる B　キャッシュ・フロー計算書から，正しく財務分析できる C　Bに達していない状況

3　基本構想に基づくコンピュータ教材の開発

(1)　コンピュータ教材開発の目標

ア　コンピュータ教材を活用してキャッシュ･フロー計算書に関する具体的な会計処理の手順や会計情報の活用方法に関する基礎的な知識を習得させ，キャッシュ・フロー計算書を作成させることができるようにする。

イ　生徒が学習を進めるにあたって，必要な知識を必要なときに何度でも見直すことができるようにする。

ウ　演習問題の解答の仕方がわからないときには，作成の手順や作成方法などの解説を表示したり，自動採点して間違いを確認させたり，同じ問題を何度でも繰り返して解答できるようにし，自己学習が進められるようにする。

(2)　コンピュータ教材開発の留意点

ア　教科書に準拠し，文章表現などはできるだけ平易なものとなるように配慮する。アニメーション機能を用い板書では表現できない動きを取り入れた説明ができるようにする。

イ　各画面に目次へ戻るボタンや操作ボタンを用意し自分の進みたいところへ簡単に行けるよう

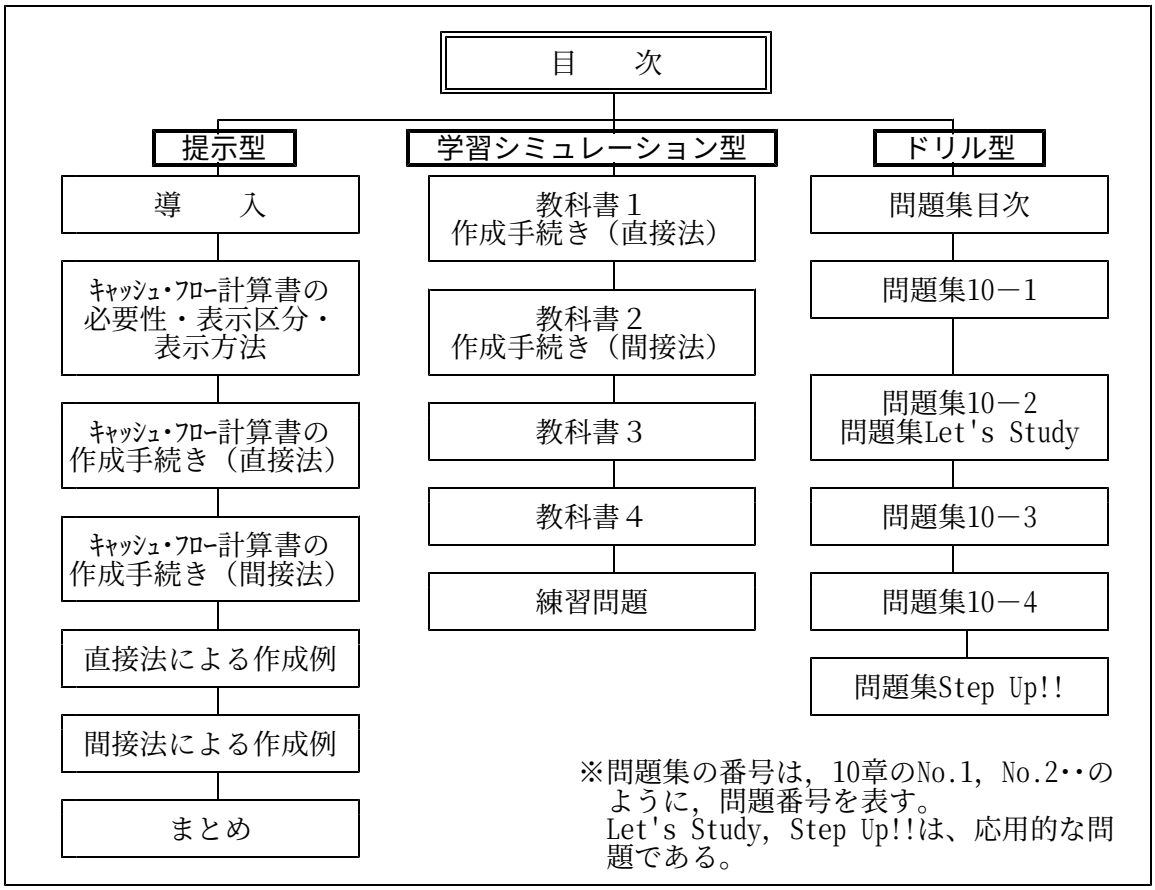
にする。

ウ　演習問題を多く用意して繰り返し使ったり，先に進むことのできるような構成にし，各生徒の習得状況に合わせて活用できるようにする。

エ　１画面にすべての情報が表示できるような画面構成にし，デザインを統一するようにする。また，学習のポイントや注意点がわかりやすいようにし，操作に戸惑わないような画面構成や色彩となるようにする。

(3)　コンピュータ教材の概要

開発したコンピュータ教材の概要を【図２】に示す。

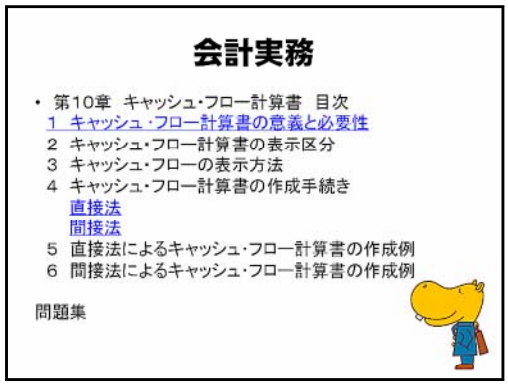


【図２】開発したコンピュータ教材の概要

ア　提示型コンピュータ教材

【図３】のような提示型コンピュータ教材の目次を用意し，生徒が復習や自己学習にも利用しやすいものとした。項目を選択することにより，学習したい部分が表示される。

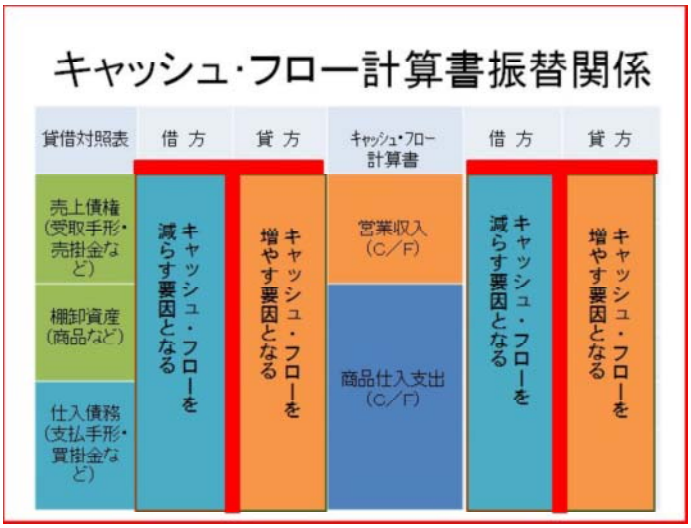
教科書に従って六つの学習内容について，次ページ【図４】のように図やアニメーションを利用して理解しやすいように工夫した。教材に合わせた学習プリントを作成し，確認すべき事項や重要用語について記述しながら学習を進めていけるようにした。



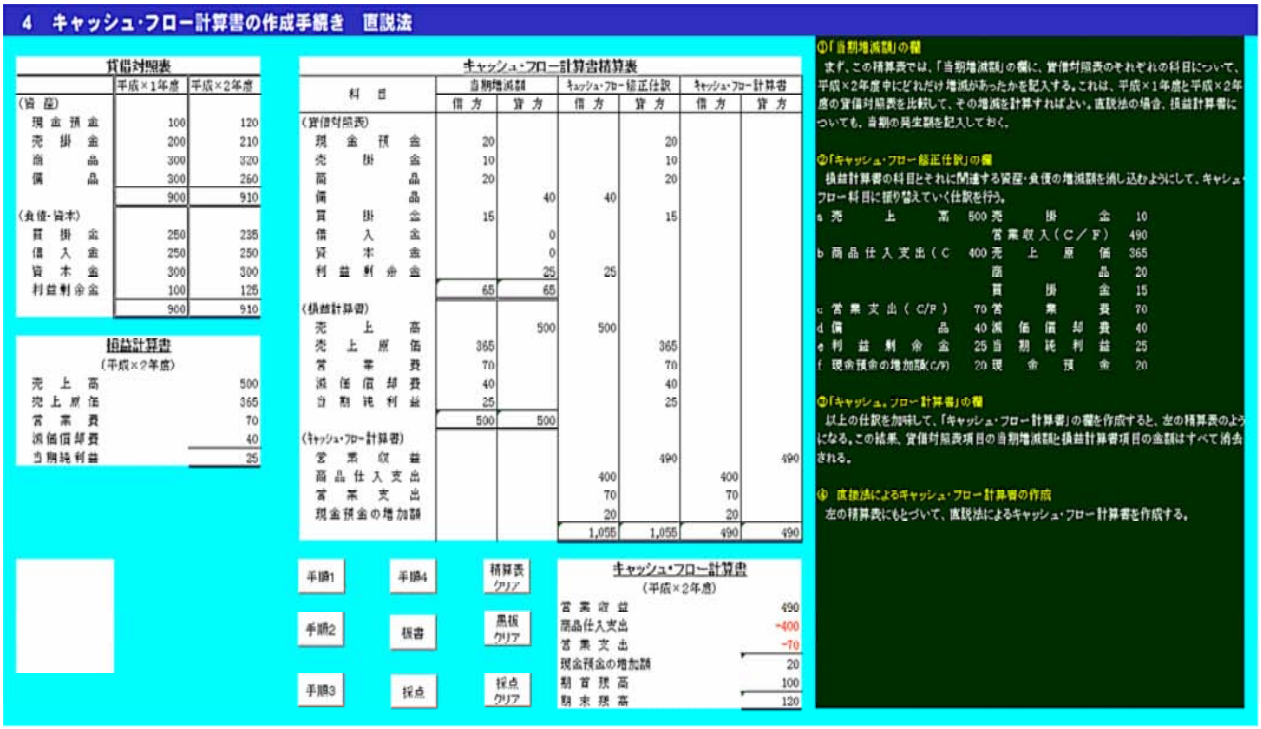
【図３】提示型コンピュータ教材目次

イ　学習シミュレーション型コンピュータ教材

学習シミュレーション型コンピュータ教材では，教科書に従い基本的な問題を手順に従ってすべて解答していく構成とした。【図５】が学習シミュレーション型コンピュータ教材の画面である。画面を二つに分けて，左半分の問題に対応して右半分は黒板を使っての板書をイメージさせた解説を表示させるようにした。これにより，普段の授業のイメージで学習のポイントを確認できる。手順のボタンを順にクリックすることにより，問題とヒントとなる板書が次々に表示されていく。説明に従って必要事項を入力していくことで，キャッシュ・フロー計算書を完成させることができる。板書の表示・非表示を選択することができるので，学習の理解度に合わせて表示を切り替えて解答していくことができる。採点ボタンをクリックすれば，自動的に採点し結果を表示させることができる。クリアボタンを用意して，精算書・黒板・採点とクリアしたい部分を選択してクリアすることができる。キャッシュ・フロー計算書の金額の合計欄は自動計算させることにより手計算の手間を省き，「貸借平均の原則」にのっとり合理的にミスを見つけることができるようにした。



【図４】提示型コンピュータ教材



【図５】学習シミュレーション型コンピュータ教材

ウ　ドリル型コンピュータ教材

次ページ【図６】のようなドリル型コンピュータ教材の目次を用意し，クリックすることによ

り，学習したい項目が選択できるようにした。各ページには，この目次画面へ戻るボタンを設定しており，前の問題に戻ったり，見直したりできるようにした。

【図７】が，ドリル型コンピュータ教材の画面である。数値を入力してキャッシュ・フロー計算書を完成させる問題である。入力されたデータを基に採点ボタンをクリックすることにより自動的に採点する。採点結果によって５種類のコメントが表示される。クリアボタンをクリックすることによりもう一度解答し直したり，印刷ボタンをクリックすることにより解答結果を印刷することができる。

【図６】ドリル型コンピュータ教材目次

これらのコンピュータ教材は，共有フォルダに個人名のフォルダを用意して，その中にあらかじめ準備しておく。教師が，このフォルダの内容を閲覧することにより，進捗状況や理解度をいつでも把握できる。

基本問題10－1

(直説法)　キャッシュ・フロー計算書精算表　(単位:万円)

科目	当期増減額 借方	当期増減額 貸方	キャッシュ・フロー修正仕訳 借方	キャッシュ・フロー修正仕訳 貸方	キャッシュ・フロー計算書 借方	キャッシュ・フロー計算書 貸方
(貸借対照表)						
現金預金	30			30		
売掛金	20			20		
商品	10			10		
備品		40	40			
買掛金	10			10		
借入金		0				
資本金		0				
利益準備金		30	30			
	70	70				
(損益計算書)						
売上高		520	520			
売上原価	380			380		
営業費	70			70		
減価償却費	40			40		
当期純利益	30			30		
	520	520				
(キャッシュ・フロー計算書)						
営業収入				500		500
商品仕入支出			400		400	
営業支出			70		70	
現金預金の増加額			30		30	
			1,090	1,090	500	500

キャッシュ・フロー計算書
(平成×2年)　(単位:万円)

営業収入	500
商品仕入支出	-400
営業支出	-70
現金および現金同等物の増加額	30
現金および現金同等物の期首残高	100
現金および現金同等物の期末残高	130

番号	名前

たいへんよくできました。次へ進みましょう。

採点　クリア　印刷　100

直接法による場合のキャッシュ・フロー計算書精算表を作成しなさい。なお、備品の当期減少額は、減価償却の計上によるものである。

【図７】ドリル型コンピュータ教材

4　授業実践及び実践結果の分析と考察

(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導の概要

ア　対象　岩手県立盛岡商業高等学校　第３学年会計ビジネス科
「会計実務」選択生（男子１名　女子18名　計19名）

イ　授業実践の内容

(ｱ)　授業実践の期間　平成19年９月３日～９月10日

(ｲ)　単元名「キャッシュ・フロー計算書」

(ｳ)　単元指導計画

時　数	学　習　内　容	コンピュータ教材活用の有無
1	・キャッシュ･フロー計算書の意義と必要性について理解する	○
	・キャッシュ･フロー計算書の表示区分について理解する	○
	・キャッシュ･フロー計算書の表示方法について理解する	○
2	・直接法によるキャッシュ･フロー計算書を作成することができる	○
3	・間接法によるキャッシュ･フロー計算書を作成することができる	○
	・キャッシュ・フロー計算書を用いて財務分析することができる	○

(ｴ)　授業実践の概要

①　１時間目の授業実践の様子

	学　習　内　容	学　習　活　動
導入 15分	○　単元の学習課題の設定 ・キャッシュ・フロー計算書の概要を知る 【写真１】実習室の様子	○　提示型コンピュータ教材を見せキャッシュ・フロー計算書が導入されるまでのおおまかな経緯をたどる ・財務諸表が企業の健康診断書の役割をしていることを把握させる ・会計ビックバンについてあまり専門的にならないように説明する ・損益計算書とキャッシュ・フロー計算書両方を総合的に見て判断することが大切なことを強調する ・キャッシュ・フロー計算書の有用性や作成義務にも軽く触れるようにする
	生徒の様子 ・プレゼンテーションソフトを使った授業は初めてなので，興味を持ちモニターを注視していた ・配置の関係上，教師側に背中を向けた格好になり，教師を見ることができなかったようである	

展 開 30分	○　キャッシュ・フロー計算書の意義について ・他の財務諸表と比較しながら考える ○　キャッシュ・フロー計算書の必要性について ・「黒字倒産」を例に必要性に気付く ○　キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲について ・対象となる資金の範囲を知る 生徒の様子 ・財務分析では，ほとんど間違った判断だったが，興味・関心を持たせることができた ・学習プリントに記入するタイミングが判らず戸惑ってしまったようである ○　キャッシュ・フロー計算書表示区分について ・それぞれの区分が何を意味しているかを理解する ○　キャッシュ・フロー計算書の表示方法について ・直接法と間接法の違いについて知る 【写真２】提示型コンピュータ教材により学習プリントへ記入している様子	○　提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○　今までの財務諸表での限界に気付かせる ・教科書には載っていない部分なので詳しく説明し理解させる ○　現金以外の範囲について理解させる ・特に現金同等物の定義について ○　学習プリントを使い簡単な財務分析をさせ興味・関心を持たせる ・キャッシュが必ずしもプラスならば良いというわけでもないことを認識させる（例　借金をしてもキャッシュは増える） ○　表示方法が違っても最終的な数字は同じであることを知らせる ・ほとんどの企業が間接法を用いてキャッシュ・フロー計算書を作成をしていることを知らせる 生徒の様子 ・サブモニターに提示型教材を映し，説明を受けた ・一方的な説明に対して，書く時間や考える時間が十分に無かったようである
まとめ ５分	○　本時間の内容について確認 ・キャッシュ・フロー計算書の重要さを理解する ○　次回の時間の予告 ・直接法について	○　必要に応じて提示型コンピュータ教材を使用して，再度説明する

②２時間目の授業実践の様子

	学　習　内　容	学　習　活　動
導	○　前時の学習内容の確認 ・キャッシュ・フロー計算書についておおまかに復習する ○　単元の学習課題の設定 ・直接法についてポイントを知る	※教室の座席配置は教師の顔が見えるように変更した ○　前時の開発した提示型コンピュータ教材のダイジェスト版を見せながら復習する

入 15分	 【写真３】学習シミュレーション型コンピュータ教材で演習している様子	○　キャッシュ・フロー計算書の意義をもう一度確認する ○　間接法との混乱を避けるため本時は直接法のみの学習とする ○　提示型コンピュータ教材を見せながら説明する ○　簡単な説明に留める ○　学習プリントで仕訳をさせながら進める
展 開 30分	○　直接法による作成手続きについて ・直接法によるキャッシュ・フロー計算書は貸借対照表と損益計算書を組み替えて作ることを理解する ○　金額の修正について ・収益と収入，費用と支出の違いについて考える ○　精算表を使っての手続きについて ・精算表を用いて簡単にできることに気付く ○　表計算ソフトを使用しての作成 ・表計算ソフトを使い簡単に作成することができることを知る 【写真４】ドリル型コンピュータ教材で演習している様子	○　学習シミュレーション型コンピュータ教材により指示に従い数値を入力させて精算表を完成させる ・学習シミュレーション型コンピュータ教材の操作方法を説明する ・説明のときは皆同じペースで作成させ，次からは自分のペースで作成させる ○　ドリル型コンピュータ教材により自分のペースで問題演習させる ・早く終わった生徒は次に進み問題演習に取り組むことができるように多めに問題を準備しておく ○　履歴が見られるように自分のフォルダに保存させる 生徒の様子 ・提示型コンピュータ教材での説明の際，学習プリントでの仕訳に時間がかかり，プリントを書き終わらないまま進んしまい，困惑したようである ・学習シミュレーション型コンピュータ教材は，教師の説明の後，自分のペースで繰り返し学習することができたようである ・ドリル型コンピュータ教材も自分のペースで繰り返し学習でき，別の問題に進むことができた ・煩わしい仕訳作業や転記，手計算等から解放され情報機器の合理性を体感することができた
ま と め ５分	○　本時間の内容について確認 ・直接法について理解する ○　次回の時間の予告 ・間接法について	○　教材提示型コンピュータ教材を見せながらを復習した ・予習，復習用の提示型教材を準備しておく

③３時間目の授業実践の様子

	学　習　内　容	学　習　活　動
導 入 ５分	○　前時の学習内容の確認 ・直接法についておおまかな復習をする ○　単元の学習課題の設定 ・間接法についてポイントを知る	○　提示型コンピュータ教材を見せながら確認 ・直接法についての復習と間接法のポイントをわかりやすく説明する
展 開 30分	○　間接法による作成手続について ・間接法によるキャッシュ・フロー計算書は貸借対照表を組み替えて作ることを理解する ○　精算表を使っての手続きについて ・精算表を用いて簡単にできることに気付く ・直接法より簡単に作成できることに気付く ○　表計算ソフトを使用しての演習 ・表計算ソフトを使い簡単に作成することができることを知る 【写真５】サブモニターを参考にしながらドリル型コンピュータ教材で演習をしている様子 【写真６】進捗状況に合わせた個別指導の様子	○　提示型コンピュータ教材を見せ説明していく ・直接法と関連付け間接法の方が簡単であることを理解させる ○　学習プリントで仕訳をさせながら進める ・重要語句についても書いて覚えさせるようにする ○　学習シミュレーション型コンピュータ教材により指示に従い数値を入力させて精算表を完成させる ・説明のときは皆同じペースで作成し次からは自分のペースで作成させる ・机間巡視しわからない生徒には個別指導をする ○　ドリル型コンピュータ教材により自分のペースで問題演習させる ・早く終わった生徒は次に進み問題演習に取り組むことができるように問題を多めに準備しておく ・机間巡視しわからない生徒には個別指導をする 生徒の様子 ・マクロのセキュリティ設定の変更を毎時間行う煩わしさを感じた生徒がいた ・操作方法もだいぶ慣れ，用意した問題をすべて終わり，さらに繰り返し学習していた ・身近な企業の財務諸表を見ることにより，今まで学習したことと関連付けることができ，興味関心を示した
ま と め 15分	○　本時間の内容について確認 ・間接法について理解する ○　次回の時間の予告 ・キャッシュ・フロー計算書から財務分析し，自分の考えをレポートにまとめる ○　その数値が何を表しているかまで分析・把握させるようにする。会計リテラシーを育むところまで発展させる。 ・Webページを活用し情報を収集する	○　提示型コンピュータ教材を使用して説明する ・状況に応じて時間を使い分ける ○　自分で考えるように働きかける ・Webページから自分で任意の企業のキャッシュ・フロー計算書を見つけさせるようにする ・選べない生徒の為にあらかじめ興味が持てそうな企業のキャッシュ・フロー計算書を用意しておく ・学習プリントの各数値の持つ意味を考えさせる

(2)　検証計画に基づいた学習内容の習得状況

ア　キャッシュ・フロー計算書に関する基礎的な知識の習得状況について

確認テストにおけるキャッシュ・フロー計算書に関する基礎的な知識についての正答率は【表４】のとおりである。基礎的な用語などの知識を問う問題については，キャッシュ・フロー計算書の意義を問う問題に関しての正答率が高いほかは，すべて50%以下の低い正答率であり習得が図れなかった。

【表４】　基礎的な知識の習得状況　N=19

問　題	正答率
キャッシュ・フロー計算書の意義	71.1%
キャッシュ・フロー計算書の必要性	43.6%
キャッシュ・フロー計算書の範囲	15.8%
キャッシュ・フロー計算書の表示区分	12.3%
経営分析	24.7%

これらの指導にあたっては，生徒の画面の見やすさを考慮して，提示型コンピュータ教材を各自のサブモニター画面に提示しながら授業をおこなったものである。提示型コンピュータ教材では，生徒の反応を確認しながら前に戻ったり，繰り返し表示したりすることができることが利点である。しかし，この授業の形態では，生徒が画面を注視しながら説明を聞くことになり，説明している教師と目線が合わない。結果として，生徒の反応を十分に確認することができないまま，教師側の一方的な説明で終わってしまったことが，習得に至らなかった原因ではないかと考える。

教師が教材の画面を提示しながら説明をする場合においては，生徒の理解状況を把握しながら利用しなければ理解の定着を図れないことがわかり，十分な成果を上げることはできなかった。今後，提示方法や活用方法も含めて検討していきたい。また，生徒が学習したい箇所を自分のコンピュータで見ることができるような自由に使える時間を設定し，個別の復習など自己学習としても利用できるようにさせたい。

イ　資金情報の処理の方法の習得状況について

確認テストにおけるキャッシュ・フロー計算書の作成に関する問題では，【表５】のとおり75.3%の生徒が正しく作成することができた。学習シミュレーション型コンピュータ教材を利用して教師の説明画面を見ながら説明を聞き，同時に生徒の画面で同様の操作をしながら作成した。その後，演習問題の解説を見ながら各自で解答したり，自己採点をしながら自分の理解状況に合わせて学習を進めたりした。演習問題を自分の学習のペースに合わせて繰り返し解答し，さらにドリル型コンピュータ教材での演習を重ねていくことで，通常４時間程度の時間をかけて作成演習を行うところではあるが，２時間の授業でキャッシュ・フロー計算書の作成ができるようになった。

【表５】　確認テストによる資金情報の処理の方法の習得状況　N=19

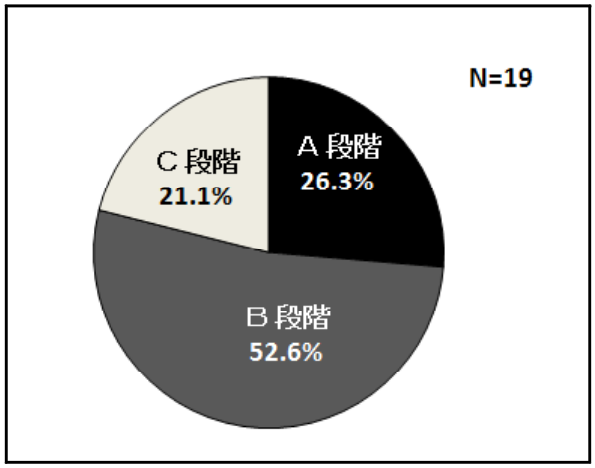
問　題	正答率
キャッシュ・フロー計算書の作成	75.3%

この学習後の各個人のフォルダ内にある例題，演習問題の解答状況を確認したところ，限られた時間ではあったが，全員がすべての問題について取り組み，キャッシュ・フロー計算書を正しく作成していることから，この教材を利用した学習が生徒の資金情報の処理の方法の習得に効果があったと考える。

ウ　資金情報の利用の仕方の習得状況について

確認テストと共に，キャッシュ・フロー計算書による資金情報の利用の仕方の習得状況を確認するために，実際の企業の財務分析を行い，その結果をまとめさせた。

あらかじめ用意してある，いくつかの企業の資金情報を基にキャッシュ・フロー計算書を作成し，そこから得られる具体的な根拠を基に正しい分析や比較ができているかを検証計画に示す規準に照らし合わせて評価した。その結果が【図８】である。



【図８】　確認テストの評価結果

同種または異種の企業を複数選択し，財務分析をした結果を自分の考えで自由に記述させた。各段階の判断する規準とその割合は，「Ａ　キャッシュ・フロー計算書から､具体的な根拠を示し正しく財務分析し，自分の考えをまとめることができる」26.3%「Ｂ　キャッシュ・フロー計算書から，正しく財務分析できる」52.6%「Ｃ　Ｂに達していない状況」21.1%である。

【表６】が，Ａ，Ｂ，Ｃと判断した記述である。

自由記述としたことにより，生徒たちは自分の考えをうまく表現できずに苦慮しているようであった。50%程度の生徒が，どの企業が良いかは判断することができるが，その理由を根拠を示してうまく文章としてまとめることができなかった。このことから，分析のまとめ方についてもより多く演習を行うことが必要であると考える。

【表６】評価別の確認テストの記述

※下線について，単線は財務分析していると判断した記述，二重線は自分の考えの記述を表す。

評価Ａ(５名)

①　Ａ社は財務活動が少なくて営業活動が多いから良いと思う。Ｃ社は財務活動が多いから減らした方が良いと思う。Ｂ社は全体的にバランスが良いと思う。３つを比べてみると１番Ｂ社が良い会社だと思う。

②　Ｂ社は，３つを比べたとき，一番借金が少ないし，営業活動も２番目で３つの中で一番いいと私は思いました。Ｃ社は借金が多すぎて，あまりいいとは思いません。Ａ社は営業活動が良いからすごいと思いました。

③　Ｃ社は営業活動がマイナスなのであまり良くない企業だと思った。絶対に投資したくない企業です。

④　３つの会社を比較してみて，Ｃ社は，借金だらけだと思いました。あと，Ａ社が一番もうけていると思っていたけど，実際的には，そんなことはなく，Ｂ社のほうが，将来的には良いと思いました。

⑤　３社の中で，Ｃ社が一番評価は悪いことがわかりました。Ａ社やＢ社は徐々に成績も上げ，良い評価を得ていると思います。でもやはり個人的には，Ｂ社がこれから伸びていくと思いま

す。

評価Ｂ（10名）

⑥　Ｃ社は，もっと財務活動を減らした方がいいと思う。Ｂ社は投資活動をもう少し増やしても良いと思う。経営成績を見ることは難しいことだと思った。

※具体的な根拠を挙げていないのでＢ評価とした。

⑦　Ａ社が１番良い会社だと思っていたけれど，比較してみたらＢ社で，今からはＢ社の時代だと思いました。Ｃ社はちょっと危ない状態だと思ったのでもうちょっと頑張ってほしいと思いました。もし，今携帯を変えるならＢにしたいと思いました。

⑧　Ｃ社は赤字だらけなのになぜ存続できるのか疑問に思った。

※⑦⑧は，具体的根拠が足りないのでＢ評価とした。

⑨　Ｆ社は，全国でも一番人気なコンビニだけあって，営業活動がかなり盛んだと思った。不要になった資産を売却して儲けるなどさまざま工夫をしているみたいだった。

※具体的な例を挙げているが，間違った解釈をしているためにＢ評価とした。

⑩　この３社の中では，Ｄ社が一番もうけていることが分かった。Ｅ社はマイナスはないと思ったけど，意外にもあったので驚いた。

⑪　Ａ社はやはりＢ社やＣ社に比べて営業活動が素晴らしいと思った。

⑫　Ｂ社やＡ社にくらべ，Ｃ社は唯一営業活動がマイナスなので危ないんだなあと思った。

⑬　最初，Ａ社かＢ社のどちらかが一番成績がいいと予想していたけれど，結果Ｂ社が３社の中で一番経営成績が良かったので，私はＢ社を使っているから安心しました。Ｃ社にはもっとがんばって欲しいと思いました。

⑭　自分達が使っている携帯の成績が知れた。見ると，Ｂ社が一番良いことが分かった。投資をみるとＣ社は費やす金がその他の企業に比べ多いことが分かった。

⑮　Ａ社は，営業活動が一番良いと思う。Ｂ社は，営業活動が２番目だけど，財務活動は，１番少ない。Ｃ社は，営業活動が１番少ないけれど，財務活動が多い。私は，Ｃ社がいいと思いました。

評価Ｃ(４名)

⑯　あまりよく分からなくて，進むことが出来ませんでした。でも，これから勉強していきたいと思います。

⑰　あまり見方が分からず，見て写しただけなのでどの会社がどう良いのかが分からなかった。

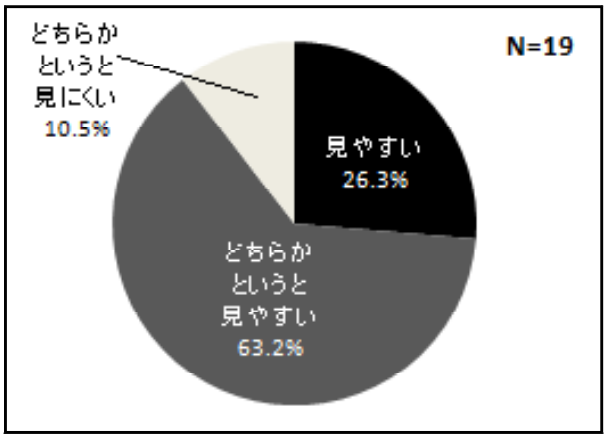
⑱　無記述

⑲　無記述

※⑯⑰は正しく財務分析できなかったためにＣ評価とした。⑱⑲は記述が無かったのでＣ評価とした。

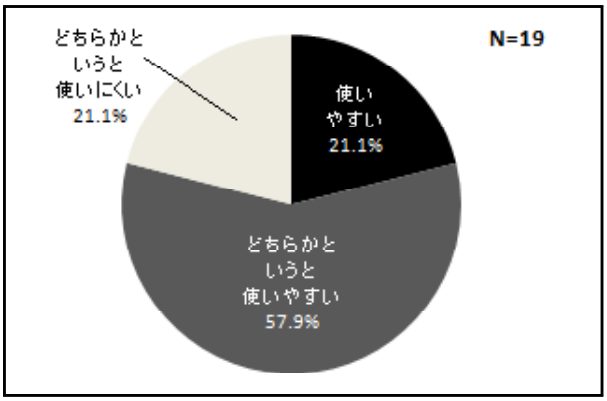
(3)　コンピュータ教材の評価について

事後アンケートについて【図９】は，「学習に使用したコンピュータ教材の表示画面について」の回答である。「見やすい」26.3%「どちらかというと見やすい」63.2%と９割近くの生徒が肯定的な評価をしている。提示型コンピュータ教材では，図やアニメーションを利用したことで概ね見やすいという評価がされたと考える。学習シミュレーション型コンピュータ教材では，限られた画面で最大限の効果を引き出せるように画面構成をしたこと，作成する表やヒント表示，操作ボタンの位置をわかりやすく配置したことが見やすさを高めたと考える。



【図９】　学習に使用したコンピュータ教材の表示画面について

【図10】は学習に使用したコンピュータ教材の操作性について」の回答である。「使いやすい」21.1%「どちらかというと使いやすい」57.9%と８割近くの生徒が肯定的な評価をしている。しかし，教材の基となっているExcelの機能を直接利用して，コピーや切り取りを行って作表して計算式が消去されてしまったり，環境復元ソフトの影響で，マクロのセキュリティ設定の変更の操作が毎回必要であったりした。そのために操作に戸惑い，使いにくいとの意見もあった。授業での活用を図るためにも，セルの保護やセキュリティ設定変更など教材の改善や授業前の確認事項を整理し改善する必要があると考える。



【図10】　学習に使用したコンピュータ教材の操作性について

【表７】は学習に使用したコンピュータ教材についての感想である。「色をたくさん使って」，「動きがあったり」，「モニターを使った方が口で説明するよりかなりわかりやすい」「自分で入力できる」などの肯定的な意見があり，こちらの開発の意図したところが生徒に評価されている。簿記会計分野の授業では，初めてこのようなコンピュータ教材を利用したことになるが，学習形態として生徒に受け入れられているのではないかと考える。一方で，「もう少し色を使えば良い」「解答のヒントに図を入れたほうが良い」などの改善点を指摘した意見がみられることから，今後，教材の改善に生かしていきたい。

基礎的な操作方法を習得している生徒にとって，コンピュータ教材を活用した授業は抵抗なく受け入れられたようである。また，コンピュータ教材を使うことによって，従来，手作業で行っていた記録・計算・整理する作業の効率化や，コンピュータを活用したことによって間違いを合理的に見つけることができることを体験をとおして理解させることができたと思う。

【表７】コンピュータ教材についての感想

・色をたくさん使っていたり，動きがあったりして良かった。
・流れ的には見やすかったし，分かりやすく思えた。

・自分で入力出来るし，採点やクリア，板書などあって何回も繰り返し出来るので良かったです。プリントも，復習などで使えるので良かったです。
・分かりやすかったです。
・もう少し，色を使えば良いと思った。あと，図が有ればもっとわかりやすくなったと思う。ただ，モニターを使った方が口で説明するよりかなりわかりやすいことがわかった。
・板書（コンピュータ教材の画面上）の字をもう少し大きくした方が見やすいかなぁと
・マクロがめんどうでした。（セキュリティの設定変更作業について）
・表示画面が速くて書き取りづらかった。
・日数が少なくてよくわからない。
※下線について，単線は肯定的な記述，二重線は改善点，波線は否定的な記述を表す

5　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関するまとめ

高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関して，開発したコンピュータ教材を活用した授業実践をとおして明らかになった成果と課題を以下にまとめる。

(1)　成果

ア　キャッシュ・フロー計算書の作成演習をとおして資金情報の処理の仕方を理解し，作成方法を身に付ける段階において，学習シミュレーション型コンピュータ教材及びドリル型コンピュータ教材を自分のペースに合わせて繰り返し活用することにより，資金情報の処理の仕方を理解しキャッシュ・フロー計算書の作成方法を身に付けることに有効であった。

イ　キャッシュ・フロー計算書を活用して資金情報の利用の仕方を理解し，活用方法を身に付ける段階において，学習シミュレーション型コンピュータ教材を活用しキャッシュ･フロー計算書を作成し，財務分析する時間を確保し活用して資金情報の利用の仕方を習得することに有効であった。

ウ　コンピュータ教材を会計実務の授業に活用することにより，今までの授業にはない実務でのコンピュータ会計に近づき，記帳作業の効率化を図り，複式簿記の理論に則って合理的にキャッシュ･フロー計算書ができあがることで，ビジネスを実感させることができた。

(2)　課題

ア　キャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報にかかわる基礎的な知識を習得する段階の指導において，提示型コンピュータ教材を活用し説明をする場合，生徒の理解状況を把握しながら利用しなければ知識の定着を図れないことが明らかとなった。提示型コンピュータ教材を活用する場合に，学習プリントを効果的に用いながら知識の定着を図るためのより詳細な授業展開を作成する必要がある。

イ　キャッシュ・フロー計算書を作成し，数値を読み取ることはできるようになったが，自分の考えをまとめることは苦手なことがわかった。キャッシュ･フロー計算書を完成させ，会計情報を分析・活用して，論理的に文章をまとめることができるようにするための指導法について明らかにする必要がある。

ウ　開発したドリル型コンピュータ教材においては，わからない場合や誤った解答をしたときにヒントを表示したり,採点箇所以外の誤記入について指摘したりすることができないため,教師の援助が必要となっている。これらの点を改良して生徒一人でも学習が進められることができる教材にしていく必要がある。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

１　研究のまとめ

(1)　高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する基本構想を立案することができた。

(2)　基本構想に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する手だての試案を作成することができた。

(3)　基本構想に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導に関する提示型・学習シミュレーション型・ドリル型のコンピュータ教材を開発することができた。

(4)　基本構想に基づいて開発したコンピュータ教材を活用した授業を行い，その結果を分析することにより，手だての有効性を検証することができた。

(5)　実践結果の分析と考察に基づき，高等学校商業科会計実務「資金に関する情報」におけるキャッシュ・フロー計算書を用いた資金情報の処理の方法や利用の仕方の習得を図る指導についての成果と課題をまとめることができた。

２　今後の課題

本研究を今後さらに生かすための課題として，次のようなことが考えられる。

(1)　コンピュータ教材の効果的な活用が図られるように，コンピュータ教材を活用した授業展開の詳細や機器の設定などの留意点をまとめた活用のための手引きを作成する。

(2)　研究により明らかになったコンピュータ教材の改善点について精査し，ヒント機能を充実させたり，操作性を高め一人でも戸惑うことなく自由に学習することのできるより使いやすい教材として完成度を高める。

(3)　財務諸表を完成させ，会計情報を正しく分析し，論理的に文章をまとめることができるようになるための指導法について明らかにする。

〈おわりに〉

長期研修の機会を与えてくださった関係諸機関の各位並びに所属校の先生方及び生徒のみなさんに心より感謝申し上げ，結びの言葉といたします。

【参考文献】

久保田政純(2006),『実業家のためのキャッシュフロー分析と企業価値評価』, シグマベイスキャピタル

吉野弘一(2007),「商業（Business)教育の創造(10)」,『産業と教育』10月号, 産業教育振興中央会, pp. 24－27

河﨑照行(2006),「激変する会計理論・会計制度と高校簿記会計教育」,『じっきょう商業教育資料』No. 72, 実教出版, pp. １－４

吉野弘一(2003),「21世紀の商業（Business)」,『じっきょう商業教育資料』No. 64, 実教出版, pp. １－４

アンダーセンビジネススクール編(2002),『超図解ビジネス　キャッシュ・フロー計算書の作成と分析』, エクスメディア社

菊谷正人(2003),『ライバルに差をつける本　速攻！財務諸表』, 日本経済新聞社

補充資料

〈　目　次　〉

【補充資料１】学習指導案 …… 補充１
【補充資料２】開発したコンピュータ教材 …… 補充５
【補充資料３】学習プリント …… 補充19
【補充資料４】確認テスト …… 補充24
【補充資料５】事後アンケート …… 補充27

【補充資料１】学習指導案

第三学年商業科学習指導案

期　間　平成19年９月３日～６日
対　象　岩手県立盛岡商業高等学校会計ビジネス科３年
「会計実務」選択生（男子１名・女子18名　計19名）
指導者　野里　拓郎

1　単元名
「キャッシュ･フロー計算書」

2　単元について
資金の流れに関する情報の重要性や処理及び利用の仕方を扱うこと

(1)　教材について
貸借対照表や損益計算書と同じように重要な財務諸表であるキャッシュ・フロー計算書を用いて，資金の流れに関する情報の重要性を理解させる。

(2)　生徒の実態について
本校会計ビジネス科の生徒は，１・２年生と検定受験を中心に学習してきた。コンピュータ教材の活用により，時間を短縮し，考える授業まで発展できればと考えている。

(3)　指導について
簿記会計分野としては，情報機器を用いプレゼンテーションソフトにより教材提示したり，表計算ソフトによりドリル学習し，簡単に作成できることに気づかせ，さらにその数値が何を意味しているかまで考えるようにさせたい。

3　単元の目標
資金の流れに関する情報の重要性を，利益が黒字で資金不足に陥っている企業の単純な例を用いて理解させる。また，資金繰り表やキャシュ・フロー計算書を用いて，資金情報の処理の方法や利用の仕方を習得させる。

4　評価基準

(1)　関心・意欲・態度
キャッシュ・フロー計算書に関する基本的な考え方などに関心を持ち，自分から進んで処理法や計算の仕方などをまとめようとする。また，意欲的に問題演習に取り組み，学習の進捗度を確認しようとする態度がみられる。

(2)　思考・判断
キャッシュ・フロー計算書はなぜ必要か，資金の状況を適切に表示するためには，どうしたらよいかなどについて考え，適切に判断して学習を進めている。

(3)　技能・表現
キャッシュ・フロー計算書に関する基礎的・基本的な技術を身につけ，それらを財務諸表のうえで的確に表現できる。また，自分が学んだことを整理して他にわかりやすく伝えることができる。

(4)　知識・理解
キャッシュ・フロー計算書に関する基礎的・基本的な仕訳や作表に関する知識を身につけている。また，いろいろな計算や仕訳，作表に関する基本的な会計理論についても，理解している。

5　指導計画

時間	学習内容	コンピュータ教材の活用
1	キャッシュ･フロー計算書の意義と必要性	提示型コンピュータ教材
	キャッシュ･フロー計算書の表示区分	提示型コンピュータ教材
	キャッシュ･フロー計算書の表示方法	提示型コンピュータ教材
2	キャッシュ･フロー計算書の作成手続き（直接法）	提示型コンピュータ教材 学習シミュレーション型教材 ドリル型コンピュータ教材
3	キャッシュ･フロー計算書の作成手続き（間接法）	提示型コンピュータ教材 学習シミュレーション型教材 ドリル型コンピュータ教材

6　展開

(1)　１時間目の展開について

ア　本時の目標

(ｱ)　キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性及び資金の範囲について理解させる

(ｲ)　キャッシュ・フロー計算書の三つの表示区分を説明できるようにする

イ　本時の展開

学習過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導　入 ５分	○単元の学習課題の設定	○キャシュ･フロー計算書の概要を知る	○提示型コンピュータ教材を見せておおまかな導入までの経緯を理解させる ○資金繰りについて理解させる	
展　開 35分	○キャシュ･フロー計算書の意義について ○キャシュ･フロー計算書の必要性について ○キャシュ･フロー計算書の資金の範囲について ○キャシュ･フロー計算書表示区分について ○キャシュ･フロー計算書の表示方法について	○他の財務諸表と比較しながら考える ○「黒字倒産」を例に必要性に気付く ○対象となる資金の範囲を知る ○それぞれの区分が何を意味しているか理解する ○直接法と間接法の違いについて知る	○提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，学習プリントへ記入させる ○今までの財務諸表での限界に気付かせる ○現金以外の範囲について理解させる ○学習プリントを使い簡単な財務分析をさせ興味･関心を持たせる ○表示方法が違っても最終的な数字は同じであることを知らせる	○学習プリントの記入 （知識・理解） ○学習プリントの解答 （思考・判断）
まとめ 10分	○本時間の内容について確認 ○次回の時間の予告	○キャシュ･フロー計算書の重要さを理解する ○キャシュ･フロー計算書の作成手続きについて	○必要に応じて提示型コンピュータ教材を活用して説明する	

ウ　具体の評価規準とＢに達していない生徒への手だて

Ａ（十分に満足できる）	Ｂ（おおむね満足できる）	Ｂに達していない生徒への手だて
・意義と必要性及び資金の範囲について，正しく説明できる ・３つの表示区分を挙げ、それぞれについて正しく説明することができる	・意義と必要性及び資金の範囲について説明できる ・３つの表示区分を挙げることができる	・学習プリントで確認させる ・学習プリントで確認させる

(2)　２時間目の展開

ア　本時の目標

直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成手続きについて理解させる

イ 本時の展開

学習過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導　入 ５分	○前時の学習内容の確認 ○単元の学習課題の設定	○キャシュ･フロー計算書についておおまかな復習をする ○直接法についてポイントを知る	○提示型コンピュータ教材を見せながら確認する	○観察 （関心・意欲・態度）
展　開 35分	○直接法による作成手続きについて ○金額の修正について ○精算表を使っての手続きについて ○表計算ソフトを活用しての作成	○直接法によるキャシュ･フロー計算書は貸借対照表と損益計算書を組み替えて作ることを理解する ○収益と収入，費用と支出の違いについて考える ○精算表を用いて簡単にできることに気付く ○表計算ソフトを使い簡単に作成することができることを知る	○提示型コンピュータ教材を用いて説明しながら，学習プリントへ記入させる ○簡単な説明に留める ○学習プリントで仕訳をさせながら進める ○学習シミュレーション型教材の操作方法を説明する ○学習シミュレーション型教材の練習問題をプリントアウトさせる	○学習プリントの解答 （思考・判断） ○観察 （関心・意欲・態度） ○練習問題の出力結果の内容 （知識・理解）
まとめ 10分	○本時間の内容について確認 ○次回の時間の予告	○直接法について理解する	○必要に応じて提示型コンピュータ教材を活用して説明する	

ウ　具体の評価規準とＢに達していない生徒への手だて

Ａ（十分に満足できる）	Ｂ（おおむね満足できる）	Ｂに達していない生徒への手だて
・直接法についての作成手順と金額の訂正について理解している ・学習シミュレーション型教材を意欲的に活用して問題を解答できる ・直接法による作成手続きに従い，キャッシュ・フロー計算書を正しく作成し完成することができる	・直接法についての作成手順と金額の訂正についていてほぼ理解している ・学習用シミュレーション型教材を教師の指示に従って問題を解答できる ・直接法による作成手続きについて理解し，キャッシュ・フロー計算書を概ね正しく作成できる	・学習プリントの記述内容につて教科書を参考にしながら復習させる ・個別指導を行い解答を援助する ・学習用シミュレーション型およびドリル型コンピュータ教材を使っての復習をさせ定着を図る

(3)　３時間目の展開

ア　本時の目標

間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成手続きについて理解させる

イ　本時の展開

学習過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導　入 ５分	○前時の学習内容の確認 ○単元の学習課題の設定	○直接法についておおまかな復習をする ○間接法についてポイントを知る	○提示型コンピュータ教材を見せながら確認する	
展　開 35分	○間接法による作成手続きについて ○精算表を使っての手続きについて ○学習シミュレーション型・ドリル型コンピュータ教材を利用した間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 ○経営分析について	○間接法によるキャシュ・フロー計算書は貸借対照表を組み替えて作ることを理解する ○精算表を用いて簡単にできることに気付く ○学習シミュレーション型教材を使い説明を聞きながら作成する ○ドリル型コンピュータ教材を活用して演習問題を解答する ○キャシュ･フロー計算書を用いて経営分析について理解する	○提示型コンピュータ教材を見せ説明しながら，プリントへ記入させる ○学習プリントで仕訳をさせながら進める ○適宜、机間巡視を行い、作業状況を確認する ○学習シミュレーション型教材の練習問題をプリントアウトさせる ○数社の財務諸表を用意し，数値の持つ意味について考えをまとめさせる	○学習プリントへの記入 （知識・理解） ○プリントアウトしたキャッシュフロー計算書 （技能・表現）
まとめ 10分	○本時間の内容について確認 ○次回の時間の予告	○間接法について理解する ○経営分析について理解する ○営業活動以外の区分について予習してくる	○必要に応じて提示型コンピュータ教材を活用して説明する ○自分で考えるように働きかける	

ウ　具体の評価規準とＢに達していない生徒への手だて

Ａ（十分に満足できる）	Ｂ（おむね満足できる）	Ｂに達していない生徒への手だて
・間接法による作成手続きについて理解でき，キャッシュ･フロー計算書を正しく作成することができる ・直接法と間接法の違いを理解し，それぞれのキャッシュ･フロー計算書精算表を正しく作成することができる	・間接法による作成手続きについて理解できる ・直接法と間接法の違いを理解し，それぞれのキャッシュ･フロー計算書精算表を概ね正しく作成することができる	・学習用シミュレーション型及びドリル型コンピュータ教材を利用した復習をおこない定着を図る ・理解が十分ではない部分を提示型コンピュータ教材を使って，復習させる

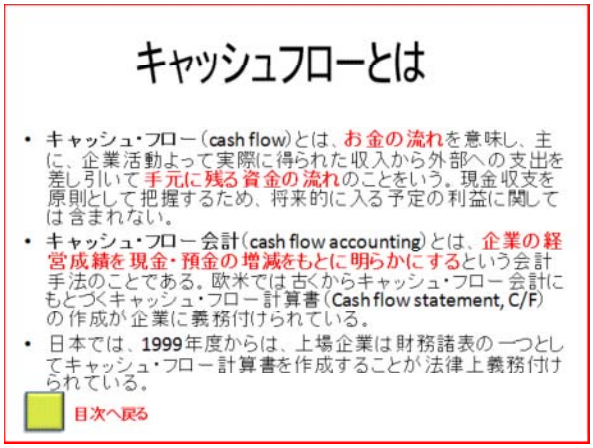
【補充資料２】　開発したコンピュータ教材

1　提示型コンピュータ教材（教材作成に用いたアプリケーションソフトはMicrosoft社のOffice PowerPoint 2007である）

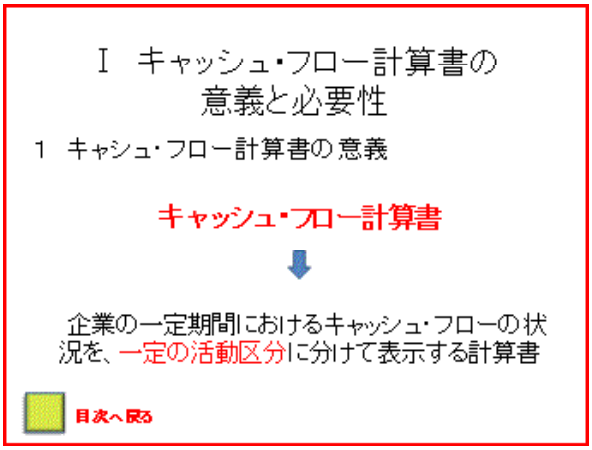
(1)　キャッシュ・フロー計算書の必要性・表示区分・表示方法

①　キャッシュ･フロー計算書の意義と必要性
初期画面

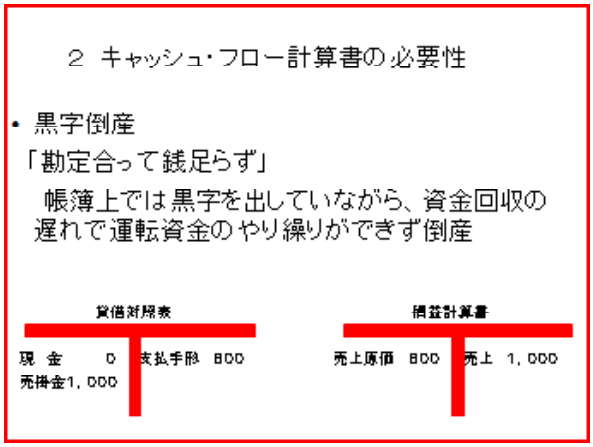
②　キャッシュフロー、キャッシュフロー計算の定義と現状



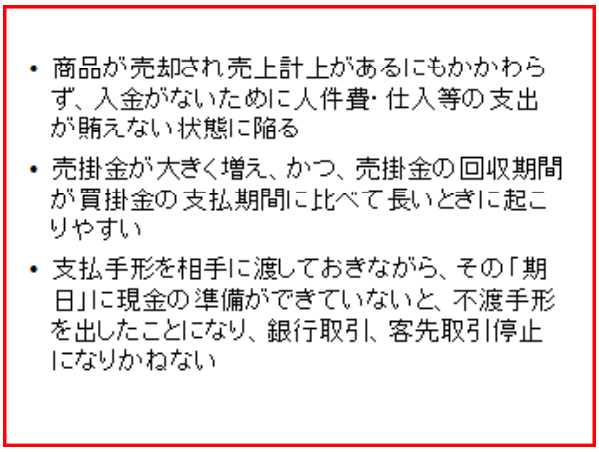
③　キャッシュ･フロー計算書の意義



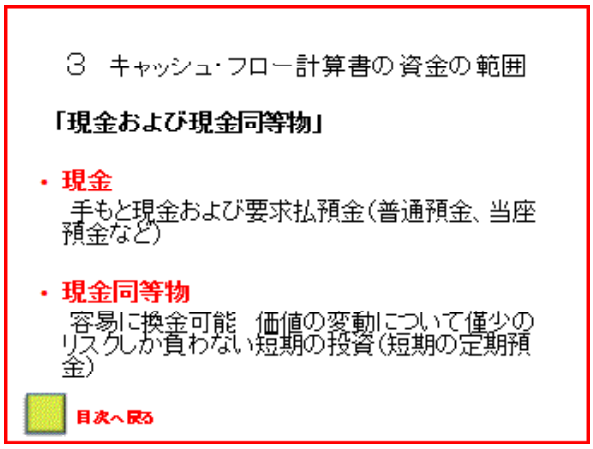
④　キャッシュ･フロー計算書の必要性



⑤　黒字倒産の要因



⑥　キャッシュ･フロー計算書の資金の範囲



⑦　キャッシュ・フロー計算書の表示区分

Ⅱ　キャッシュ・フロー計算書の表示区分

- １　営業活動によるキャッシュ・フロー
  本業で獲得した資金
- ２　投資活動によるキャッシュ・フロー
  将来の事業拡張のための投資
- ３　財務活動によるキャッシュ・フロー
  過不足資金を調整

目次へ戻る

⑧　営業活動によるキャッシュ・フロー

１　営業活動によるキャッシュ・フロー

①営業活動の対象となった取引に係わるキャッシュ・フロー

②営業活動に係る債権・債務から生ずるキャッシュ・フロー

③利息および配当金によるキャッシュ・フロー

④法人税の支払額(または還付金)

目次へ戻る

⑨　投資活動によるキャッシュ・フロー

２　投資活動におけるキャッシュ・フロー

①　有価証券(現金同等物に含まれないもの)及び投資有価証券の取得支出および売却収入　**証券投資**

②　固定資産の取得支出および売却収入　**設備投資**

③　資金の貸付けおよび回収　**融資**

目次へ戻る

⑩　財務活動によるキャッシュ・フロー

３　財務活動によるキャッシュ・フロー

①　借入金および株式または社債の発行による資金の調達

②　借入金の返済および社債の償還

③　配当金の支払い

目次へ戻る

⑪　キャッシュの増減の内容を示すもの

キャッシュ・フロー計算書はキャッシュがどうして増えたか減ったか教えてくれる

- 実際のお金の出入りがわかる

表示区分

- 会社の自由に使えるお金がわかる

フリー・キャッシュ・フロー

- これだけで経営分析ができる

⑫　経営分析の例

経営分析をしてみよう

	営業活動	投資活動	財務活動
A　社	－	＋	＋
B　社	－	－	＋
C　社	－	＋	－
D　社	－	－	－

A社　設備売り食い　つなぎ融資型
B社　過剰設備投資　過剰融資型
C社　設備売り食い　借入金返済型
D社　破産目前　破産寸前型

営業キャッシュ・フロー　－　投資キャシュ・フロー
＝フリー・キャッシュ・フロー

⑬　どうしたら資金が増えるか

どうしたら資金が増えるか
考えてみよう

資金　増加　　在庫（棚卸資産）の減少　販売
　　売掛金（売上債権）の減少

資金　減少　　在庫（棚卸資産）の増加　仕入
　　売掛金（売上債権）の増加

⑭　現金および現金同等物が増える要因

現金および現金同等物の増える要因

- 資産の増加
- 資産の減少
- 負債の増加
- キャッシュ・フローを増やす要因
- 資本の増加
- 収益の発生

お金を増やす要因は？

目次へ戻る

⑮　現金および現金同等物が減る要因

現金および現金同等物の減る要因

- 資産の増加
- 資産の減少
- 負債の減少
- キャッシュ・フローを減らす要因
- 資本の減少
- 費用の発生

お金を減らす要因は？

目次へ戻る

⑯　損益計算書とキャッシュ・フロー計算書の違い

損益計算書と
キャッシュ・フロー計算書の違い

損益計算書	キャッシュ・フロー計算書
・発生主義	・現金収支主義
・収益（成果）	・収入
・費用（犠牲）	・支出

決算でできた貸借対照表と損益計算書を組み替えて作成する

目次へ戻る

⑰　収入と支出，支出と費用の違い

収入と収益　支出と費用の違い

- A 収入はなくとも収益となるもの　・掛売上の計上など
- B 収入はあるが収益とならないもの　・売掛金（売上債権）の入金など
- C 支出はないが費用とならないもの　・掛仕入の計上など
- D 支出はあるが費用とならないもの　・買掛金（仕入債務）の支払いなど

⑱　キャッシュ・フローの表示方法

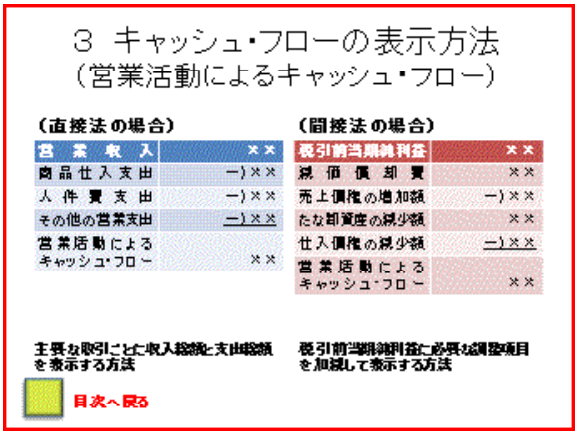
Ⅲ　キャッシュ・フローの表示方法

- 1　直接法　主要な取引ごとに収入総額と支出総額を表示する方法
- 2　間接法　税引前当期純利益に、必要な調整項目を加減して表示する方法

ほとんどの企業が間接法なんだよ。

目次へ戻る

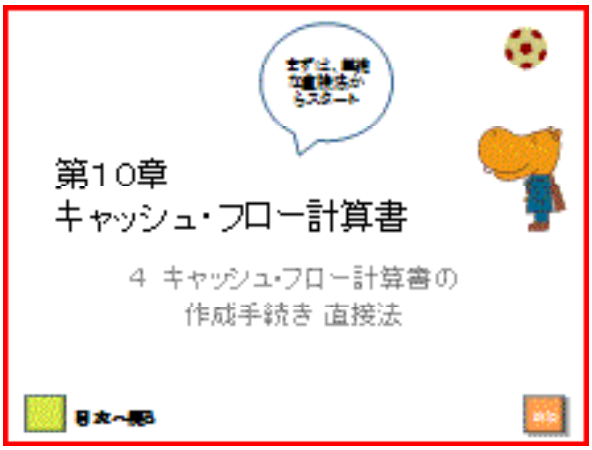
⑲　営業活動によるキャッシュ・フロー



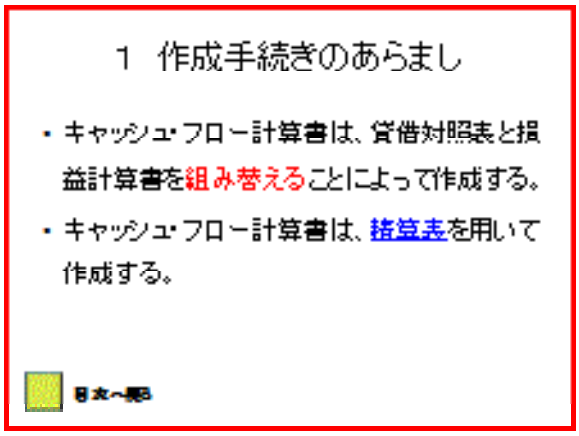
⑳　画面選択のメニューボタン

(2)　キャッシュ・フロー計算書の作成手続き（直接法）

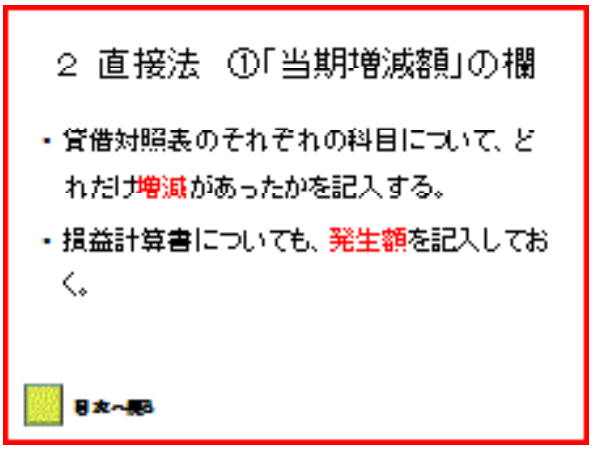
①　キャッシュ・フロー計算書の作成手続き（直接法）表紙



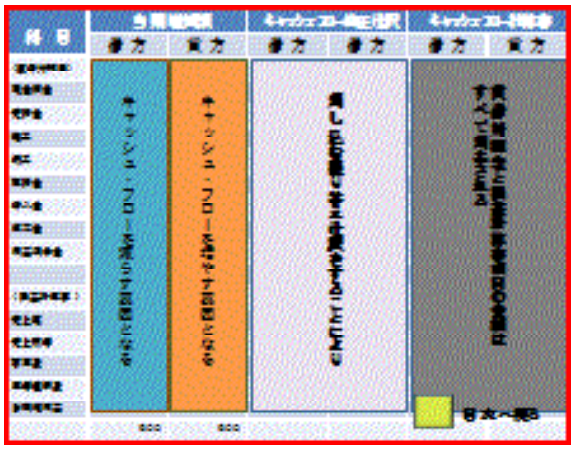
②　作成手続きのあらまし



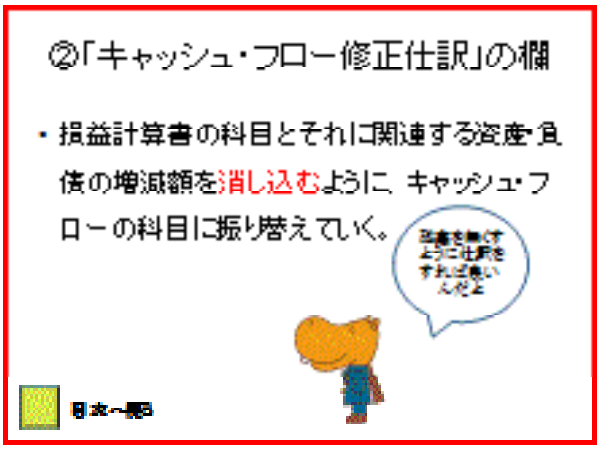
③　「当期増減額」



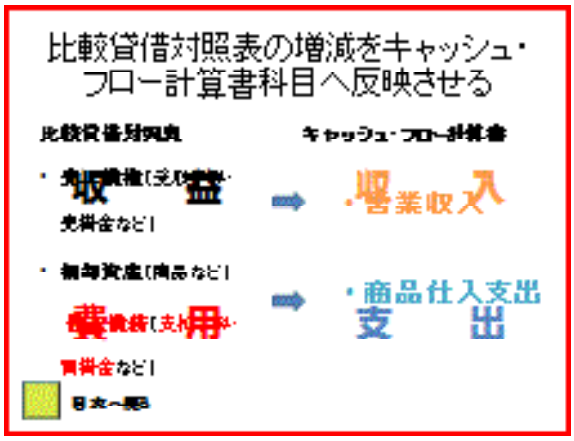
④　キャッシュ・フロー計算書精算表



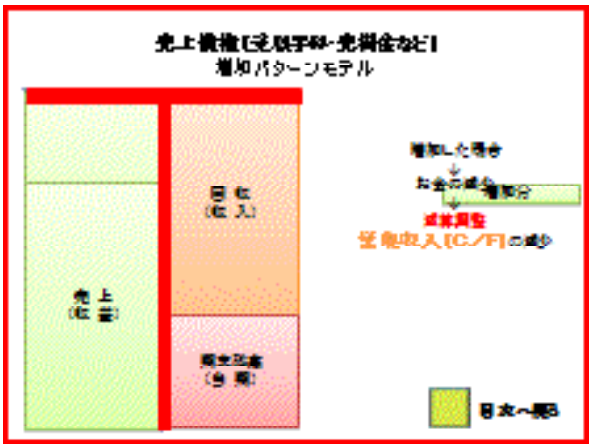
⑤　「キャッシュ・フロー修正仕訳」



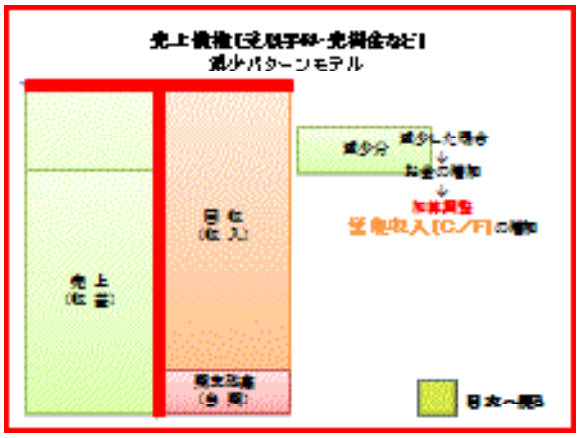
⑥　貸借対照表の増減をキャッシュ・フロー計算書科目へ反映させる



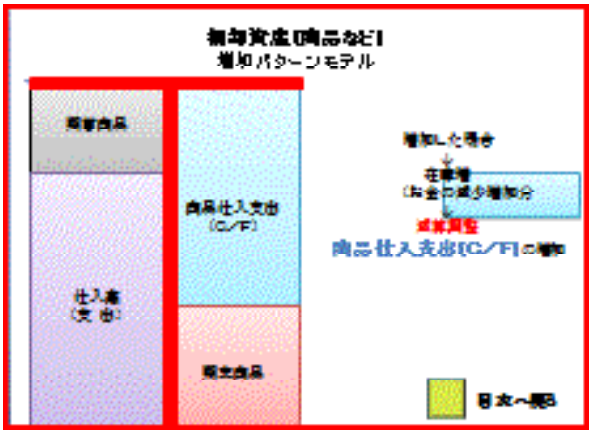
⑦　売上債権増加パターンモデル



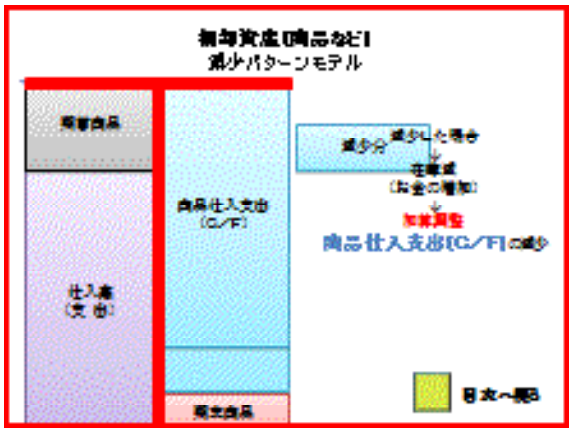
⑧　売上債権減少パターンモデル



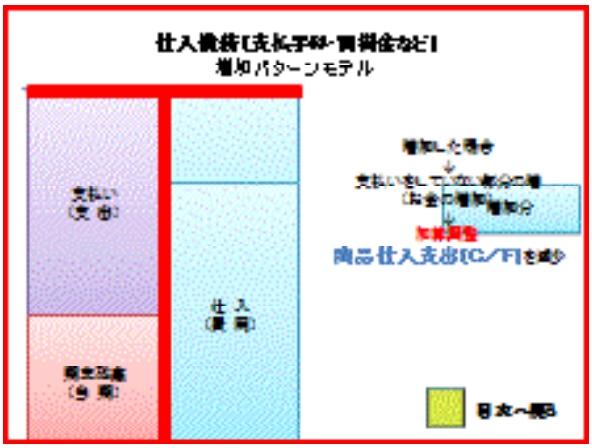
⑨　棚卸資産増加パターンモデル



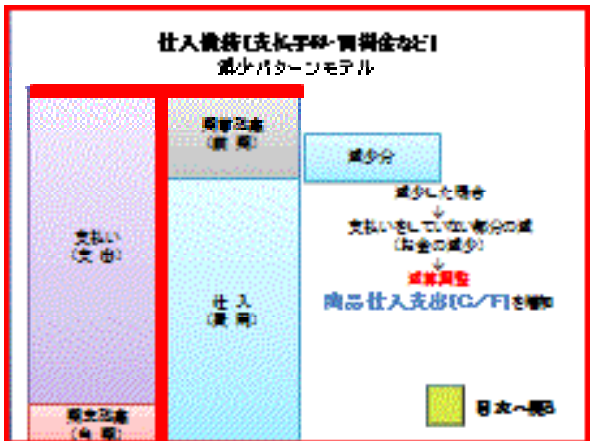
⑩　棚卸資産減少パターンモデル



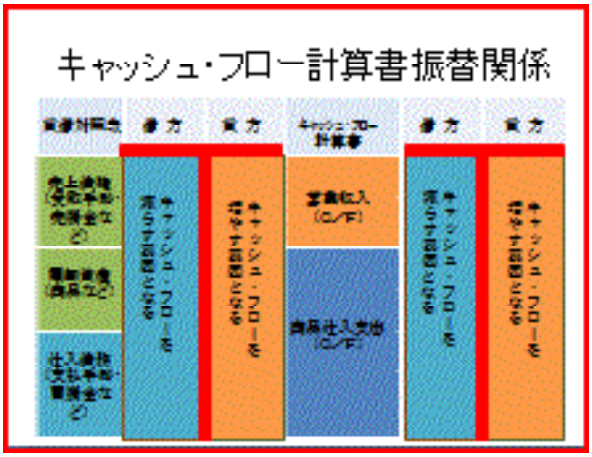
⑪　仕入債務増加パターンモデル



⑫　仕入債務減少パターンモデル



⑬　キャッシュ・フロー計算書振替関係

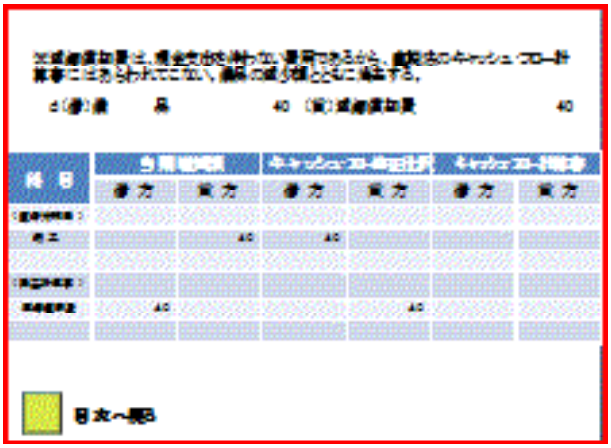


⑭　売上債権を営業収入に反映させる

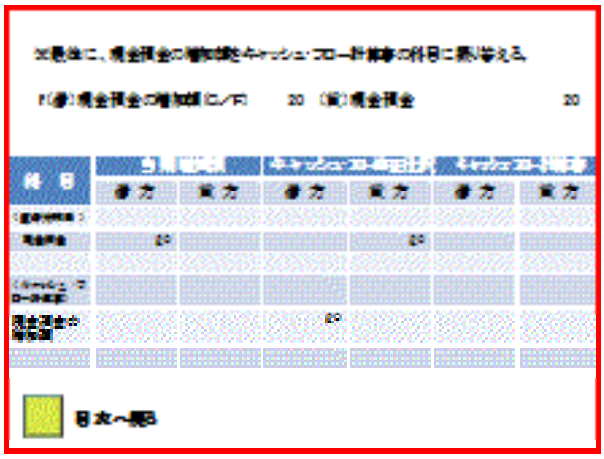
⑮　棚卸資産と仕入債務を商品仕入支出に反映させる

⑯　営業費を営業支出に振り替える

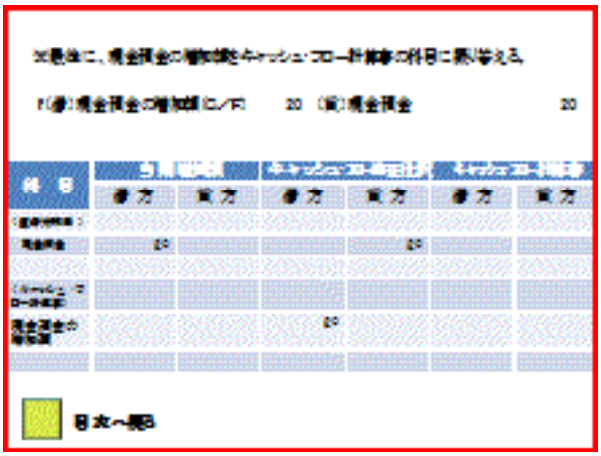
⑰　減価償却費と備品を相殺消去する



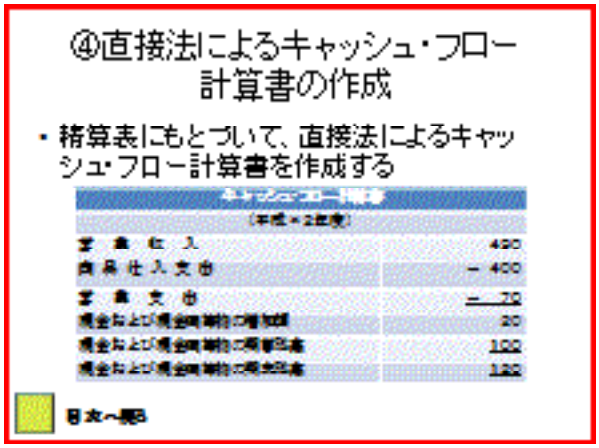
⑱　当期純利益と利益剰余金を相殺消去する



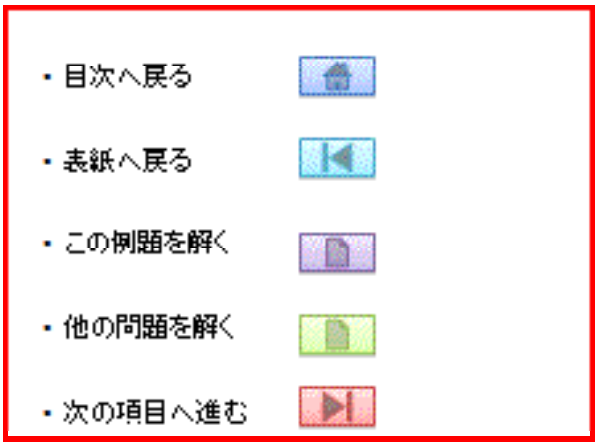
⑲　現金の増加額をキャッシュ・フロー計算書へ振り替え



⑳　直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成

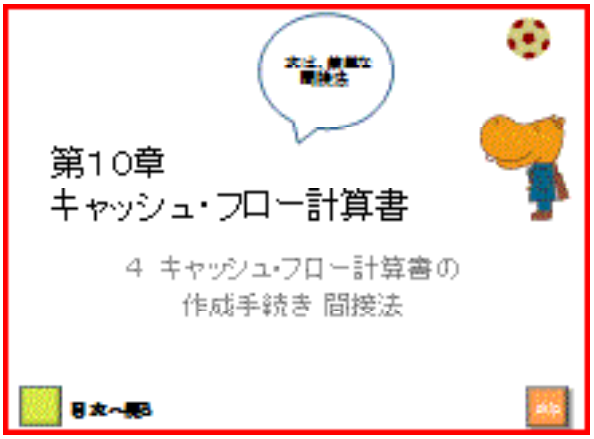


②　画面選択のメニューボタン

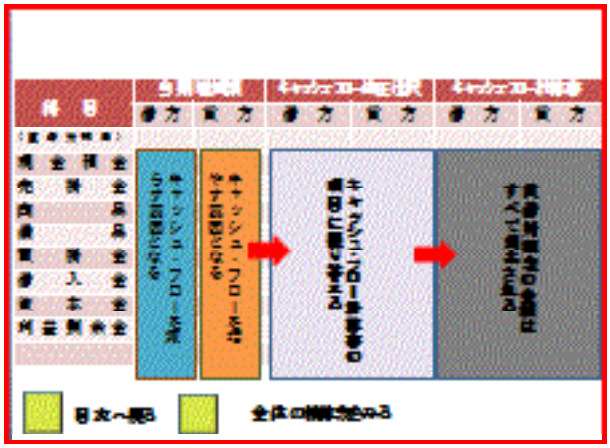


(3)　キャッシュ・フロー計算書の作成手続き（間接法）

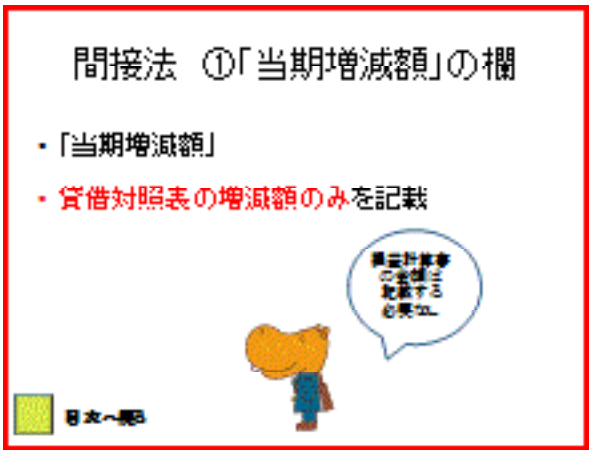
① キャッシュ・フロー計算書の作成手続き（ 間接法）表紙



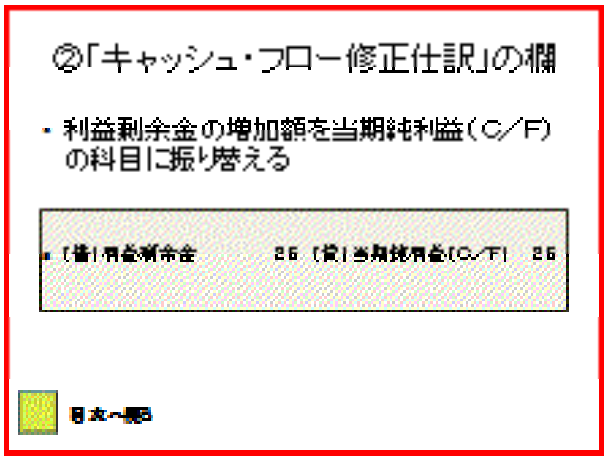
② キャッシュ・フロー計算書精算表



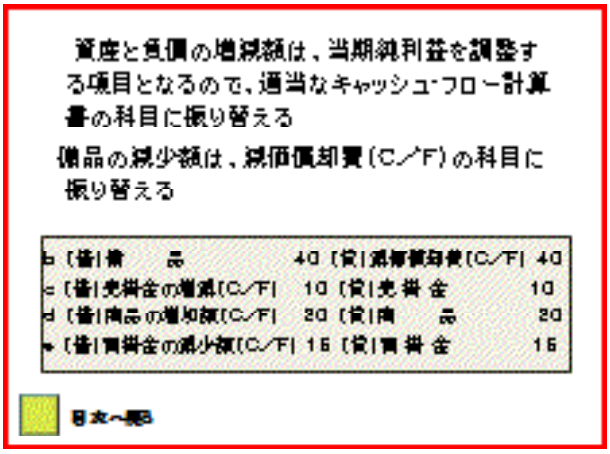
③ 「当期増減額」



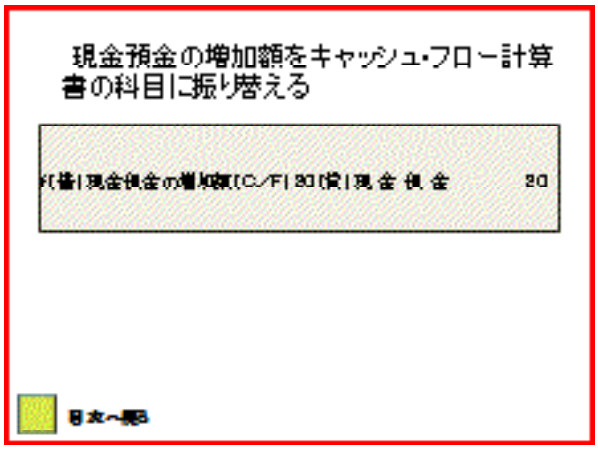
④ 「キャッシュ・フロー修正仕訳」



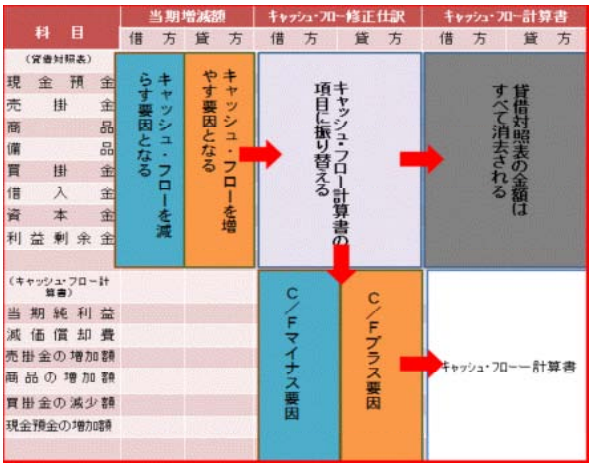
⑤ 資産と負債の増減額をキャッシュ・フロー計算書の科目へ振り替え



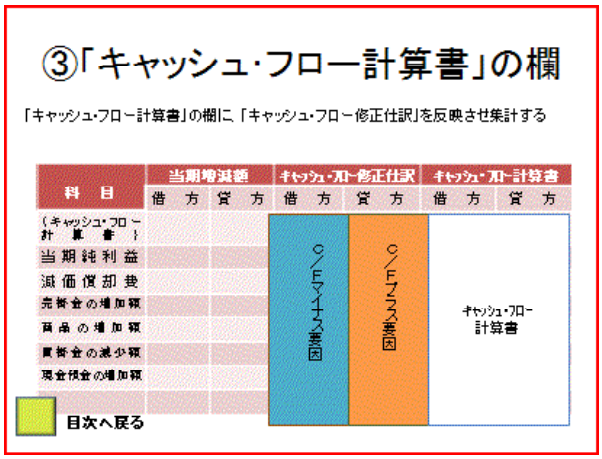
⑥ 現金預金の増加額をキャッシュ・フロー計算書の科目に振り替え



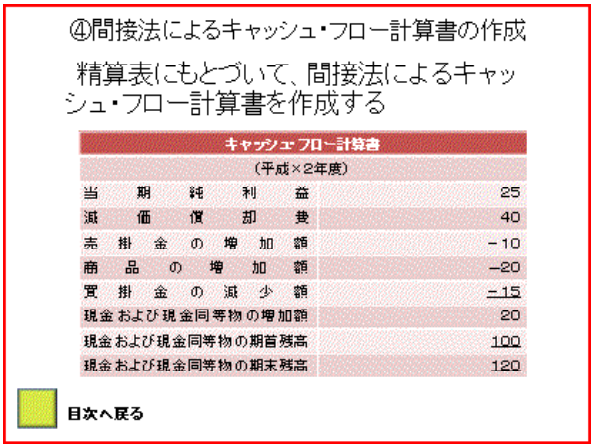
⑦　キャッシュ・フロー計算書精算表（間接法）



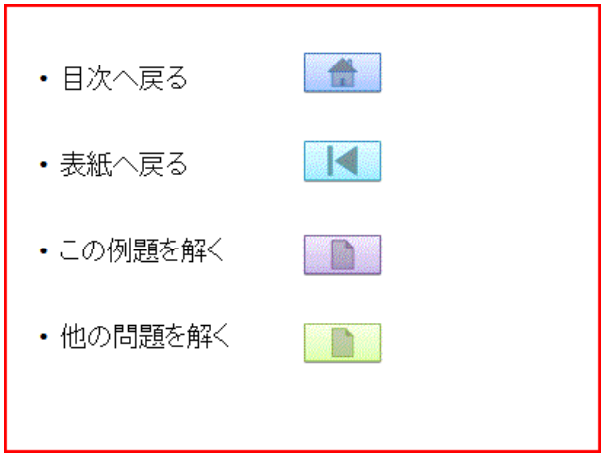
⑧　キャッシュ・フロー計算書（間接法）



⑨　間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成



⑩　画面選択のメニューボタン



2　学習シミュレーション型コンピュータ教材　（教材作成に用いたアプリケーションソフトはMicrosoft社のOffice Excel 2007である）

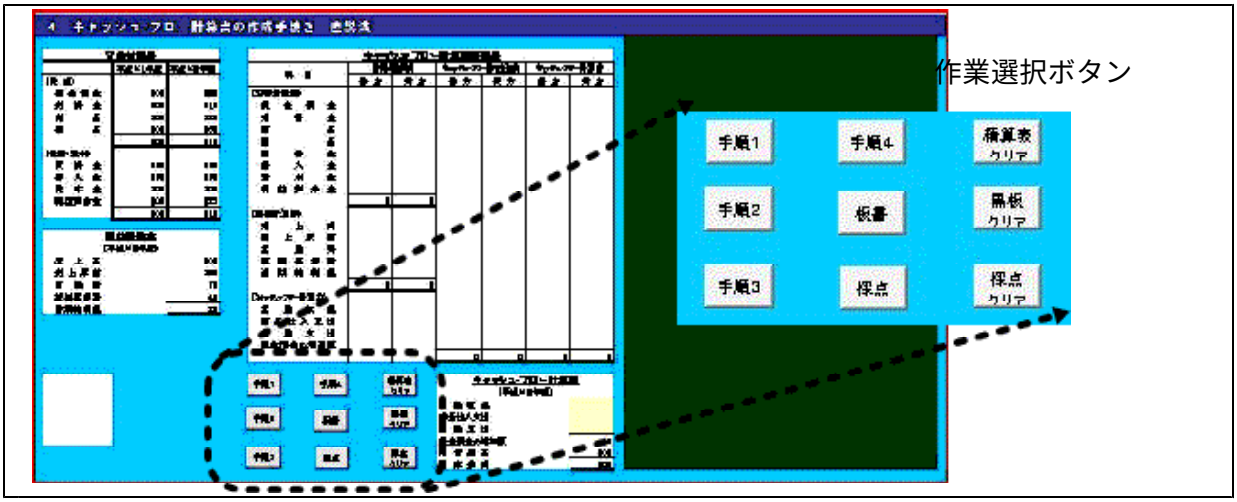
(1)　教科書１　作成手続き（直接法）

・手順のボタンにあわせて表示される画面

・ボタンをクリックすることにより，解説とキャッシュ・フロー計算書精算表の数字が次々と表示される

・クリアボタンを用意して，精算表・黒板とクリアしたい部分を選択できる

・採点ボタンをクリックすれば，自動的に採点し結果を表示することができる



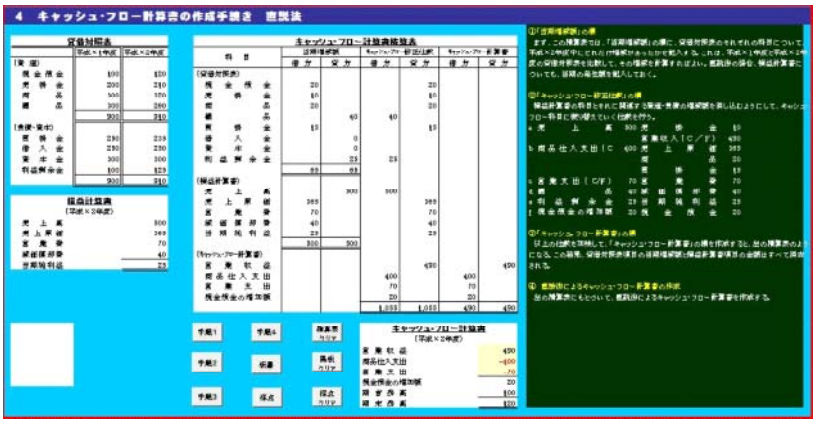
① 初期画面

（左） 貸借対照表
損益計算書
（中央）キャッシュ・フロー計算書精算表および直接法によるキャッシュ・フロー計算書
（右） 黒板
作成の手順や整理仕訳などの解説を手順に従って表示する

② 手順１
当期増減額の欄を説明する画面

③ 手順２
キャッシュ・フロー修正仕訳の欄を説明している画面

④ 手順３
キャッシュ・フロー計算書の欄を説明している画面



⑤　手順４
　直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成を説明する画面

⑥　採点した画面
　左下に得点が表示される

(2)　教科書２　作成手続き（間接法）
　　教科書１　作成手続き（直説法）と同様に、手続きに従い作成していく。

①　初期画面

　画面構成は、教科書１と同様である。

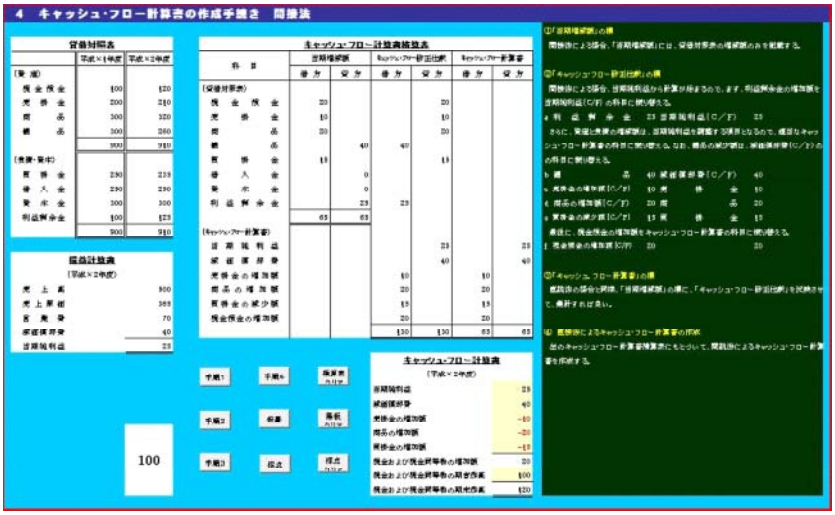
（中央下）間接法によるキャッシュ・フロー計算書

② 手順１
当期増減額の欄を説明する画面

③ 手順２
キャッシュ・フロー修正仕訳の欄を説明する画面

④ 手順３
キャッシュ・フロー計算書の欄を説明する画面

⑥　手順４
　間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成を説明する画面



⑥　採点した結果

3　ドリル型コンピュータ教材（教材作成に用いたアプリケーションソフトはMicrosoft社のOffice Excel2007である）

(1)　問題集10－１　（10-２以下の問題は同様の形式である）

・数値を入力することでキャッシュ・フロー計算書を完成させる

①　直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成初期画面

基本問題10－1

（直説法）　キャッシュ・フロー計算書精算表　（単位：万円）

科目	当期増減額 借方	当期増減額 貸方	キャッシュ・フロー修正仕訳 借方	キャッシュ・フロー修正仕訳 貸方	キャッシュ・フロー計算書 借方	キャッシュ・フロー計算書 貸方
（貸借対照表）						
現金預金	30			30		
売掛金	20			20		
商品	10			10		
備品		40	40			
買掛金	10			10		
借入金		0				
資本金		0				
利益準備金		30	30			
	70	70				
（損益計算書）						
売上高		520	520			
売上原価	380			380		
営業費	70			70		
減価償却費	40			40		
当期純利益	30			30		
	520	520				
（キャッシュ・フロー計算書）						
営業収入				500		500
商品仕入支出			400		400	
営業支出			70		70	
現金預金の増加額			30		30	
			1,090	1,090	500	500

キャッシュ・フロー計算書
（平成×2年）　（単位：万円）

営業収入	500
商品仕入支出	-400
営業支出	-70
現金および現金同等物の増加額	30
現金および現金同等物の期首残高	100
現金および現金同等物の期末残高	130

番号	名前

たいへんよくできました。次へ進みましょう。

採点　クリア　印刷

100

直接法による場合のキャッシュ・フロー計算書精算表を作成しなさい。なお、備品の当期減少額は、減価償却の計上によるものである。

解答状況により、5段階のメッセージが表示される。

満点

「たいへんよくできました

次へ進みましょう」

80点以上

「よくできました

100点取るまで挑戦しましょう」

60点以上

「ふつうです

もう一度教科書の問題をみましょう」

40点以上

「がんばりましょう

もう一度教科書の説明をみましょう」

20点以上

「もうすこしです

もう一度解説をみましょう」

【補充資料３】　学習プリント

会計実務学習プリント　No.１

平成19年９月３日（月）

組　　番　名　前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

キャッシュ・フロー計算書とは（　　）

財務諸表（　　）

・（　　）会社が事業資金をどうやって集めて，どのような形で保有しているか表すもの

・（　　）期間ごとの経営成績（もうけ具合）を表すもの

・キャッシュ・フロー計算書（　　）

第１０章　キャッシュ・フロー計算書

１　キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性

１　キャッシュ・フロー計算書の意義

↓

（　　）

２　キャッシュ・フロー計算書の必要性

（　　）倒産「勘定合って銭足らず」

帳簿上では黒字を出していながら，資金回収の遅れで運転資金のやり繰りができず倒産

・商品が売却され売上計上があるにもかかわらず，入金がないために人件費，仕入等の支出が賄えない状態に陥る

・（　　）が大きく増え，かつ（　　）の回収期間が（　　）の支払期間に比べて長いときに起こりやすい

・（　　）を相手に渡しておきながら，その「期日」に現金の準備ができていないと，（　　）を出したことになり，銀行取引，客先取引停止になりかねない

３　キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲

・現　　金　手もと現金および（　　）（普通預金，当座預金など）

・（　　）　容易に（　　）可能であり，かつ，価値の変動について僅少の（　　）しか負わない（　　）の投資（短期の定期預金）

２　キャッシュ・フロー計算書の表示区分

１　営業活動によるキャッシュ・フロー

（　　）

２　投資活動によるキャッシュ・フロー

（　　）

３　財務活動によるキャッシュ・フロー

（　　）

キャッシュ・フロー計算書はキャッシュがどうして増えたか減ったか教えてくれる

・実際のお金の出入りがわかる　（　　）

・会社の自由に使えるお金がわかる　（　　）

・これだけで経営分析ができる

Q　経営分析をしてみよう（＋は資金の増加，－は資金の減少を示す）

	営業活動	投資活動	財務活動	判　　定
A　社	－	＋	＋	
B　社	－	－	＋	
C　社	－	＋	－	
D　社	－	－	－	

フリー・キャシュ・フロー
＝（　　）　－　（　　）

Q　どうしたら資金が増えるか考えてみよう

資金の増加	
資金の減少	

損益計算書とキャッシュ・フロー計算書の違い

損益計算書	→	キャッシュ・フロー計算書
発生主義	→	（　　）
収益（成果）	→	（　　）
費用（犠牲）	→	（　　）

3　キャッシュ・フローの表示方法

1（　　）主要な取引ごとに収入総額と支出総額を表示する方法
2（　　）税引前当期純利益に，必要な調整項目を加減して表示する方法

会計実務学習プリント　No.２

平成19年９月４日（火）

組　　番　名　前

４　キャッシュ・フロー計算書の作成手続き

１　作成手続きのあらまし

・キャッシュ・フロー計算書は，（　　）と（　　）を組み替えることによって作成する。

・キャッシュ・フロー計算書は，（　　）を用いて作成する。

２　直接法

①「当期増減額」の欄

・（　　）のそれぞれの科目について，どれだけ（　　）があったかを記入する。

・（　　）についても，（　　）を記入しておく。

②「キャッシュ・フロー修正仕訳」の欄

・（　　）の科目とそれに関連する（　　）（　　）の増減額を（　　）ように，キャッシュ・フローの科目に（　　）ていく。

貸借対照表の増減をキャッシュ・フロー計算書科目へ反映させる

<table>
<tr><td colspan="2">貸借対照表　→　キャッシュ・フロー計算書</td></tr>
<tr><td colspan="2">売上債権　→（　　）</td></tr>
<tr><td>棚卸資産</td><td rowspan="2">→（　　）</td></tr>
<tr><td>仕入債務</td></tr>
</table>

キャッシュ・フロー計算書振替関係

<table>
<tr><th>貸借対照表</th><th>借方</th><th>貸方</th><th>ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ計算書</th><th>借方</th><th>貸方</th></tr>
<tr><td rowspan="2">売上債権</td><td>増加</td><td></td><td rowspan="2">営業収入</td><td>（　　）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>減少</td><td></td><td>（　　）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">棚卸資産</td><td>増加</td><td></td><td rowspan="4">商品仕入支出</td><td>（　　）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>減少</td><td></td><td>（　　）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仕入債務</td><td></td><td>増加</td><td></td><td>（　　）</td></tr>
<tr><td>減少</td><td></td><td>（　　）</td><td></td></tr>
</table>

	借　　方	貸　　方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

③「キャッシュ・フロー計算書」の欄

・仕訳を加味して,「キャッシュ・フロー計算書」の欄を作成する。この結果,（　　）の当期増減額と（　　）の金額は，すべて（　　）される。

④直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成

キャッシュ・フロー計算書

（平成×２年度）

（　　）

（　　）

営　業　支　出　＿＿＿＿＿＿

現金および現金同等物の増加額

現金および現金同等物の期首残高　＿＿＿＿＿＿

現金および現金同等物の期末残高　＿＿＿＿＿＿

会計実務学習プリント　No.3

平成19年９月６日（木）

組　　番　名　前

3　間接法

①「当期増減額」の欄

・(　　)の増減額のみを記載

②「キャッシュ・フロー修正仕訳」の欄

	借　　方	貸　　方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

③「キャッシュ・フロー計算書」の欄

・直接法の場合と同様,「当期増減額」の欄に「キャッシュ･フロー修正仕訳」を反映させて，集計する。

④キャッシュ・フロー計算書の作成

キャッシュ・フロー計算書

（平成×２年度）

(　　)

(　　)

売掛金の増加額

商品の増加額

買掛金の減少額

現金および現金同等物の増加額

現金および現金同等物の期首残高

現金および現金同等物の期末残高

【補充資料４】　確認テスト

キャシュ･フロー計算書　確認テスト（１）

番　号	名　　前	得　点

１．キャッシュ･フロー計算書が、（１）何で（２）何を表すのか簡単に説明しなさい。

（１）		（２）	

２．黒字倒産について、簡単に説明しなさい。

３．次の文章の空欄にあてはまる語を答えなさい。

キャッシュ･フロー計算書が対象とする資金の範囲は、現金および（　　ア　　）である。現金とは、手もと現金および普通預金、（　　イ　　）などの（　　ウ　　）預金をいう。（　　ア　　）とは、容易に（　　エ　　）可能であり、かつ、価値の変動について僅少の（　　オ　　）しか負わない短期の投資をいう。

ア	イ	ウ	エ	オ

４．それぞれの表示区分は、何を表しているか答えなさい。

営業活動によるキャッシュ･フロー	
投資活動によるキャッシュ･フロー	
財務活動によるキャッシュ・フロー	

５．別紙資料をもとに経営分析し、自分の考えをまとめなさい。

(直説法)　　キャッシュ・フロー計算書精算表　　(単位:万円)

科目	当期増減額		キャッシュ・フロー修正仕訳		キャッシュ・フロー計算書	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
(貸借対照表)						
現金預金	50					
売掛金		10				
商品		20				
買掛金	30					
借入金		40				
資本金		0				
利益準備金		10				
	80	80				
(損益計算書)						
売上高		700				
売上原価	550					
営業費	140					
当期純利益	10					
	700	700				
(キャッシュ・フロー計算書)						
営業収入						
商品仕入支出						
営業支出						
借入れによる収入						
現金預金の増加額						
			0	0	0	0

キャッシュ・フロー計算書(間接法)

(平成×2年)　　(単位:万円)

当期純利益	
売掛金の減少額	
商品の減少額	
買掛金の減少額	
借入金の増加額	
現金および現金同等物の増加額	

番号	名前

次の直接法によるキャッシュ・フロー計算書精算表と間接法によるキャッシュ・フロー計算書(一部)を完成させなさい。なお、金額の単位は万円とする。

キャシュ･フロー計算書　確認テスト（２）

○　キャッシュ・フロー計算書から財務分析をしてみよう

番　号	名　　前	評　価

企業のキャッシュ・フロー計算書から金額を算出し下の表に記入しなさい。また，その数字について自分の考えをまとめてみよう。

企　業　名	営業活動	投資活動	（フリー）	財務活動	コ　メ　ン　ト

この企業を選んだ理由

（　　）

＜分析＞

【補充資料５】事後アンケート

研究に関わる事後アンケート

岩手県立総合教育センター
長期研修生　野里　拓郎

会計実務の学習について、以下の質問にあてはまる番号に○印をつけて回答してください。
なお、このアンケート調査の結果は、研究のためのデータとしてのみ利用し、研究成果としての発表資料として掲載されますが、個人情報については一切公表しません。

○コンピュータやプロジェクタを活用した学習について質問します。

Ⅰ．コンピュータやプロジェクタを活用した授業はどうでしたか。

1　よかった　　2　どちらかというとよかった　　3　あまりよくなかった　　4　よくなかった

Ⅱ．コンピュータやプロジェクタを活用した学習はわかりやすいですか。

1　わかりやすい　　2　どちらかというとわかりやい　　3　どちらかというとわかりにくい
4　わかりにくい

その理由を書いてください。

Ⅲ．学習に活用したコンピュータ教材について質問します。

(1) 教材の表示画面について

1　みやすい　　2　どちらかというとみやすい　　3　どちらかというとみにくい
4　みにくい

(2) 教材の操作性について

1　使いやすい　2　どちらかというと使いやすい　　3　どちらかというと使いにくい
4　使いにくい

(3) 教材についての感想や意見（改良点など）があれば書いてください。

Ⅳ．その他、今回の授業について感じたことや意見・質問など、自由に書いてください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

組	番	氏名